

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会
会報 第24号
昭和62年12月11日発行
編集人 月見里得知郎

静中・静高関東同窓会 第十三回総会盛大に！

六月五日、二百五十名集う

年に一回、先輩・同輩・後輩が一堂に会し、より一層の親睦を図る楽しい総会——今年も築地スエヒロの大宴会場で、六月五日(金)午後六時半より賑々しく開かれた。

関東同窓会は広域支部として最大の大世帯、年に五回の幹事会(約四〇名)が出席、年二回の会報(20ページ)の発行、その他懇親会など、過去十余年にわたって活動を続け、発展の一途を辿ってきた。

会員数も年々増加して三千五百余を数える現在、より円滑な運営を図るために三分科会(①総務・

財務②企画③会報・名簿)を、さきごろ設けるに至った。

今回の総会は、その企画部が大いに腕をふるってくれて開催の運びとなったのである。

鈴木与平同窓会長も久しぶりに

お元気な姿を見せられ、大井川支部の土屋詮二氏、また母校の鈴木清見校長、杉山同窓会事務局長、北川巻平先生等々来賓も遠路出席されたが、三十八期から今春卒業の百三期までの二百五十名の岳南健児、その意気と熱気に驚かれたことと拝察する。

宮澤次郎会長・来賓のご挨拶のあと、総会議事に入り、六十一年

度事業報告・会計報告、次いで六十二年度予算・行事計画が審議され、それぞれ承認されたが、会運営の財源である年会費の納入については、とくに強く要望された次第である。

なお、本年は役員改選期、宮澤会長など役員の留任、および新たに副会長として荒谷じつ子(68期)監事として村松直(42期)氏に代って後藤弘枝の両姉の選任が提案され、満場一致で可決された。女性の役員就任は遅きに失した感があるが、両姉の決意表明も大きな拍手をもって迎えられた。

懇親パーティは、例年通り石割正(38期)大先輩の若々しい音頭による乾杯で始まった。

スエヒロのご馳走に静岡名産の珍珠(即売コーナーは早々と売切れ)、会場いっぱいには懇談の花がひらいていく。

就職についてアピールする大学

生たち、校歌はやはり四番まで大合唱、そして名残りはつきぬが万歳三唱して閉会となった。なお当日は64ページの新しい会員名簿と会報23号が全員に渡された。

その後の同窓会活動

(62年6月・62年11月)

◇幹事会

・62年7月6日(月) 6時半

築地スエヒロ

出席者 34名

・62年度総会・収支報告

会報・名簿の発送依頼など

◇幹事会

・62年10月8日(木) 6時

トッパンムーブ会議室

出席者 22名

・会報発送及び会費納入促進の依頼

頼

・会のマンネリ化を防ぐための方策についてなど

策についてなど

◎年会費二千元の拠出を、同封の振替用紙にてぜひお願いします。
◎会報に掲載の広告を、奮って応募してください。

不動産のご用はぜひ

三井不動産販売ネットワーク

城南リハウス株式会社

目黒店・自由が丘店・蒲田店

日東不動産株式会社

取締役社長 田島 弘一郎

取締役副社長 調子 達郎 (70期)

東京都目黒区下目黒1-3-27

TEL 03(491) 0171(代)

株式会社 **富士越**
株式会社 **富士越化成**

代表取締役 野澤 正憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9

TEL(409) 3342(代)

TEL(400) 9541(代)

昭和61年度 静中・静高関東同窓会決算書

(S61.4.1~S62.3.31)

I 収 入

60年度繰越金	395,907円
60年度会費(28名)	58,000円
61年度会費(898名)	1,906,000円
62年度会費(4名)	8,000円
広告料	250,000円
寄附金	66,000円
預金利息	8,681円
総会収入	129,000円

計 2,821,638円

II 支 出

会 報	442,000円
名 簿	590,000円
郵 送 費	870,540円
印 刷 費	113,000円
人 件 費(アルバイト)	100,000円
消耗品費	87,500円
事務用品費	2,350円
交 際 費	20,000円
雑 費	7,065円
会合補助費	397,266円
交 通 費	950円

計 2,630,671円

III 残 高(次年度繰越) 190,967円

上記監査の結果適正であることを認めます。

昭和62年5月7日

監 事 村 松 直

監 事 村 井 東 助

昭和62年度 事 業 計 画

1. 総 会 年 1 回
2. 顧 問 会 年 1~2 回
3. 幹 事 会 年 5 回位
顧問会と幹事会は合同でやる場合もあります。
4. 会報の発行 年 2 回(6月・11月発行)
5. 懇 親 会 ゴルフ大会(年 2 回)
釣り大会、ハイキング大会(年 1 回)等

昭和62年度 静中・静高関東同窓会予算

(S 62.4.1~S 63.3.31)

I 収 入

繰 越 金	190,967円
年 会 費	1口1000円 2口以上×1100人 2,300,000円
広 告 収 入	480,000円
その他雑収入	200,000円

計 3,170,967円

II 支 出

会報発行費	400,000円
名簿発行費	800,000円
消耗品費	50,000円
郵 送 費	700,000円
印 刷 費	100,000円
人 件 費	100,000円
事務用品費	5,000円
会合補助費	400,000円
借 入 返 済	500,000円
予 備 費	115,967円

計 3,170,967円

上野精三氏を偲ぶ

村 松 圭 三(45期)

大正十五年真紅の大優勝旗が静岡駅の人波の中を浅間さんにお参りして、夕暮れ近く静中の校庭に飾られ、声を限りに「岳南健児」を歌った感激を、当時二年生だった私は生涯忘れられない。あれから六十二年の歳月、六十回余の夏の大会に、今年こそ、今年こそと張切って県大会にのぞんでも、どうしてもあの優勝旗まで手のとどかない口惜しさは、静中静高の卒業生なら誰でも感ずることだろう。

で三角ベースの野球をやったものだった。その仲間が、そろって静中の野球部に入ったので、全く親しい者ばかりだった。精ちゃん、清の字の清ちゃんだと思ったのが、何時の間にか米偏の精に変わった。

一年違いで、家も近いし、同じ野球仲間だから随分親しくしていただいたり、よく叱られた。精ちゃん最初の頃は、球がおそくしておそくてトンボがとまるぞと冷やかしたものだ。それが福島銀さんのリードがよいためか、岡田明大監督の指導のおかげで素晴らしいインドロの名投手に変わって行った。ミラクル(奇蹟)投手上野精三となったのは、周りの並々ならぬ指導もあったが、何よりも本人の努力、練習の成果が、あれだけの投手となったと思う。

体も人並みで、さして頑強だとも思えないが、あの全国大会甲子園の話題として、今も残る準々決勝対前橋中との十九回の大延長戦を淡淡と投げ抜き、しかも「そん

あの私達の家は西草深の河島勇さんの病院を中心に、国鉄総裁になられた下山定則さんの家が私の家の向い、お父さんが薬剤師の上野さんの家、宇佐見一夫君の教会が現在のNHKの裏のお稲荷さんの近くだった。今は狭くなってしまっ

たが、あのお稲荷さんの前の広場

う。

う。

なにつかれたとは思わなかった。

私は投手でベンチからマウンドまでが遠いと思っても、ライトの松浦さんなんかベンチから守備位置まで十九回も往復してさぞ大変だったろう」と同僚を心配するあたり、何か上野さんらしさを思わせ

た。全く現在の甲子園でも広いけど、今のラッキーゾーンのない昔は全く広いと思いました。外野がかすんで見えると云うのが実感でした。NHKで作った『熱戦甲子園』と云うテレビ集の劈頭、『時こそ来つれ いざ戦わん』の中でこの前橋戦終了直後の感想を上野さんが話していますが、

「キャッチャーがよかったから投げたんです。疲れたことは事実ですが、ただ永かったなあ」と云う感じだけで、勝ったと云う実感が湧きませんで、狂気乱舞する様な事はありませんでした。静かに勝った喜びをかみしめて明日にそなえると云う様な事でした」と。

あの試合の前夜、関西地区の卒業生有志が置塩章さん（関西建築界の大家、明治三十一年、静岡野球部創成時代の投手）を中心に六甲摩耶山に選手を招待して激励した。ところが十九回の延長戦、もし負けでもしたらと、どんな心配したか生涯忘れられない事だったと

後年私に話して下さった。

それはさて、上野さんは翌日の準決勝対高松中との試合で安打僅か2本、三振13と云う快記録を達成されている。

静岡高野球部史に残る氏の甲子園の思い出の中に、静中が優勝出来たことは全くチームワークの

間町の桜湯まで行き、肩や背を流

しながら先輩も後輩もなく冗談をとばした合宿の日など苦しいけれど楽しい毎日でした。大会近くになると部員より多い先輩がぞろぞろ来て、一生懸命教えてくれたり手

伝って下さる。伝統の力とはかく云うことであると、しみじみ思わ



福島主将から6人目上野投手。3人目はセ・リーグ審判だった故国友正一（現松井）も。左から 福島 戸崎 国友 松浦 小河 上野 田崎 藤田 築地 本田 石川

おかげで、鎮さん（福島主将）が云うナインワンが徹底し、ほんと

うに皆な仲が良かったとしみじみ書いています。そういえば、はげしい練習、部員の数が少いからボール拾いやフリーバッティングの投手など三百から四百球を投げる猛練習のあとで、皆でそろって七

せられました。

上野さんから投手技術を教えられた高木容平氏（現松井）も「上野さんは投球動作の基本的なことは充分教えられましたが、それと同時に学生野球とはかくあるべきだとマナーの正しさとかチームワ

てくれました。大先輩の実践的なこの導い教えは生涯忘れられませ

ん」と述べられている。

上野さん達の大正十五年の活躍は、県大会で浜松一中を6A-10

掛川中を21-1、初出場の清見湯商業（現清水商高）を7-0で破

り県優勝 神静大会で横浜一中に12A-4、16-1で大勝し甲子園大会に出場。この頃の上野投手は実に目の覚める様な活躍をし、敵をバットバットと三振に打ち取っている。

甲子園での活躍は、一回戦不戦勝、二回戦で強敵早稲田実業を9-1の予想外のスコアで勝抜き前述の前橋中とは19回の延長戦、19回投げて上野投手の切れのよいカーブは少しも衰えず、8回裏に同点に追いついて以来、19回までスコアボードをつぎ足して0

が続く、19回裏、福島主将の中前安打で二塁に居た築地がホームイン、四時間四十分の激闘の幕が降りた。（前橋中学の片桐捕手は水

戸高校から東大に入り、六大学で上野投手と再び顔を合せている）翌日、高松中との対戦。前日前橋中戦に二百六十一球投げ抜いた上野投手が、前日の疲労も忘れたかの様に回を重ねる毎に調子をあげ、要所要所をカーブで締めて、

高松打線をわずかに2安打に抑え、13三振を奪った快記録については

前述したが、この時のトップバッター戸崎肇弘先輩のランニングホ

ームランなど味方の打線極めて好調、5A-1で優勝戦へ駒を進めた。

（このときの高松中学には三原脩がいて、早慶戦で上野投手と対決、補欠の梶原は一高、東大の投手、四番打者で活躍したが、惜しくも南方で散華した）

大連商業との決勝戦はまたまた上野さんの好投で四回以後は大連打者を毎回三人で片づける快投ぶり、9回裏に小河直人さんのスクイズで福島さんホームイン、貴重な一点をあげて全国優勝と云う偉業をなしとげた。静岡野球部結成以来三十二年目の「日本一」達成であった。

（大連商業の円城寺投手は法政桜井捕手は明治に進み、ともに六大学リーグ戦で活躍した）

上野さんは、昭和四年静中を卒業、慶応大学に進み、その年の春の六大学リーグ戦でマウンドを踏み、水原茂、宮武三郎、山下実ら

打棒に助けられて全勝優勝、翌年の極東オリンピックの代表に選ばれた。昭和22年から2年間慶大の監督に就任し、二十二年春秋と連

続優勝、二十五年には日本石油の監督として都市対抗野球でも優勝するなど、常に栄光の道を歩んだ好運の人である。その後プロ野球では近鉄の技術コーチをしながら六大学のテレビ解説や報知新聞で評論を書いておられたが、毎年、夏になると帰郷されて母校の野球部に適切なアドバイスを与えて下さっていた。

最後に、上野さんが私に送って下さった『慶応大学野球部史』の昭和四年のところを見ると、この年、我々静中軍は夏の甲子園大会に不戦勝の後、二回戦で水戸中学を5-1で破り、三回戦(準々決勝)で広島商業に十一回の延長戦で4-1で敗れた年であるが、その年の秋、明治神宮大会に選ばれて上京、試合前夜、慶応大学の招待で東京会館で夕食会があり、

慶応の宮武、水原、山下、梶上さん達と懇談することが出来、翌日天覧早慶戦を見させて戴いたことが詳細に書かれていることはうれし

い。今年も、静岡県大会が七月十八日から開始され、母校は船川監督の下、今年は打線が好調で勝ち進み、一〇八校の代表として五年ぶりに甲子園へ駒を進めることになった。しかし毎年ネット裏に姿を

みせていた上野さんをみることはもうできなかった。一沫の淋しさを禁じえない。

上野さん、静中の上野さん、日

同 期 会

四三期

久しぶりに静岡へ行き、毎月二十日に開催している定例の三笑会へ出席した。丁度今度で六十五回目である。

正午ごろ三笑亭に行ったが旧知の面々も三々五々集っており、当日は所用で何時もの常連の方々が欠席されたので、東京からの私を含めて十名であった。

焼津水産界の主であった近藤久一郎君が今度静岡へ転居されたので、始めて三笑会へ出席され、久しぶりに元氣な姿を披露してくれた。

話題も同期の仲間の噂から始まり、現在出席している各自の近況やら母校野球部の甲子園出場へと移り、すこぶる元氣な集りであった。

吾々のクラスは昭和三年三月三日卒業し大手町の静岡倶楽部で謝

本一の上野さん、心から御冥福をお祈りしてペンを擱きます。

() の中は白井茂氏(44期)が加筆しもの。

恩会を開いてから丁度来年で六十年に当る。母校の百周年の年は吾々の卒業五十周年に当り盛大に大会を開くことができたが、今度も盛大に祝うよう計画することになった。

各自それぞれ好みの注文をした昼食もでき、久しぶりの三笑亭の御馳走に舌鼓を打ちながら会食した。此処は大石貞次主人のお蔭で会場の時間の制限はなく、頗るリラックスしてアットホームに過ごすことができるので何時来ても誠に楽しい会合である。

当日の出席者は見原三郎、磯谷幸一郎、近藤伊佐男、松永清平、近藤久一郎、滝口亀太郎、小杉一、八木友治の諸氏であった。

(西沢純三)

四八期

東京在住四八回生のつどいが、四月十日丸の内の日本工業倶楽部

の集会室で開かれた。同倶楽部の会員になっている近藤希賢君のお世話によるもので、春宵のひとつきを食事と共にしながら楽しく歓談した。幹事原崎進一君や福永正美君、伊藤重久君が手分けして出欠とりの電話連絡をされた由で、誠にご苦労様でしたと申し上げた

い。東京在住者のつどいは、従来も大体一、二年に一度位のビッチで、不定期に開かれていたが、これからは毎年一回は集ろうということになった。

四八回生の総会は静岡と東京交互に年一回開いていたのを、爾今毎年四月八日(四八回に因む由)を定例日として交互制をやめ、静岡で行うことになったとのことである。四八回生は今年でみんな七十一才か七十二才になった筈で古稀を過ぎたが、まだ老年期のほんの入り口にたったぐらいの感じである。

今回集まった九名の諸君氏名(後記)も第一線はリタイアしたが、髪も黒々として元氣そのものだったのは頼もしい限りであった。

健康法の話も出たが、快食・快眠・快便を心掛け、バランスのとれた食事、植物性繊維を充分にとり、禁煙の実行、万歩計を腰につけて気候の良いときは毎日か隔日か、自分の体調に合せて少くとも

五千歩乃至一万歩位は歩いて足腰を丈夫にする。

また常に知的好奇心を失わず、好きな書物を好きな時に大いに読書する。出来るだけ色々な人に会って雑談を楽しむ。絵や音楽の鑑賞(自分でやれば猶結構)基、将棋、短歌、俳句などの趣味があれば云うことはないという訳である。

筆者宅の近くに堀秀彦氏という東大哲学科出身で、東洋大学の教授、学長を歴任した方が住んでおられたが、今年八月、八十五才で永眠された。同氏は人生論や古典に関する啓蒙的な解説書を昔から書いておられたが、晩年は特に、老人にかかわる人生論をよく書かれた。六九才の頃に奥様に先立たれた子女とは別居して独り住いを長く続けられた。大学の方は七二才頃におやめになったようである。同氏の建前論ではない、本音をずばりついた辛口の老人論は、その達意平明な名文と相俟って、誠に面白く、また参考になったように思う。まだ読まれていない方にはご一読をおすすめしたい。著書は色々あるが主なものの二冊をあげると「銀の座席」と「石の座席」(いずれも朝日新聞社刊)である。

話は変わるが数年前アカデミー賞

をとった、ヘンリー・フォンダ、

キャサリン・ヘップバーン主演の

アメリカ映画「黄昏」を半年位前

に見たが、老年期の夫婦と娘をし

みじみとしたタッチで描いた、心

にしみる名画であった。このよう

な映画に深い感慨を覚えるものと

しをとった証拠かも知れません。

さて本題に戻って、当夜は病氣

療養中の大橋広世君と影山浩君に

出席者一同寄せ書きのお見舞状を

書いて、八時過ぎ再会を約して散

会した。東京在住の諸君も次回は

出来るだけ多く出席して欲しいも

です。

出席者(五十音順)

伊藤重久、近藤希賢、鍋田新一

四九期

(河村祥)

九月二二日四九期の総会が静岡

七間町の静岡北ワシントンホテル

で開催され、出席者三十五名。東京

方面より馳せ参じた者一五名。

伊藤(徹)、今村、江山、大津、加

藤、陰山、直原、篠田、嶋、菅沼

杉本、曾根、田中(良)、安本、和

談があった。

本告亮一先生が逝去された。ご

冥福をお祈りした。

土佐先生、家永先生の御作品の

展示会を有志で企画している。

夜を徹して話し、有志は一泊し

た。

(菅沼栄一)

五一期

関東同窓会の皆さん、御無汰次

しております。会員の諸兄には益

々御元気で各方面に御活躍のこと

とお慶び申し上げます。

私共のクラス会は卒業回次に因

んで「五一会」と呼んでおります。

勿論静岡が本部ですが、東京を中

心とし関東一円に在住する卒業生

により「東京五一会」を設けてお

ります。静岡は東京の支部のよう

な性格を持ち、両者は密接な連絡

をしながら原則として春は東京で

秋は静岡でクラス会を開き、会員

は何れの会にも自由に出席できる

五〇周年記念を兼ねて開催しまし

た。出席者は東京勢九名を含み二

七名でした。会員に対する記念品

や記念写真の配布と共にアトラク

ションも組み込まれ盛会でした。

東京では昭、六二、四、二二、築

地の「スエヒロ」で行いました。

静岡から三名計二三名の出席があ

りました。

「五一会」は戦後静岡と東京で

それぞれ有志が集って発足し、東

京・静岡の合同クラス会を含み通

算三三回、東京だけでは前記四月

の分を含み二一回となりました。

静岡・東京で申し合せて今後は両

地区で単独開催であっても合同開

催であつても回数は合算して、少

くとも第五一回目の「五一会」まで

意と努力に心から感謝致しており

ます。向寒の折柄会員の皆様の呉

々々御自愛の程お祈り致します。

(佐伯正剛)

五二期

例年忘年会を兼ねて開催してい

る関東静岡52期会が、本年度は、

好晴の秋日和に恵まれた十月二十

三日花の金曜日夕刻、場所は銀座

ライオンビアホール特別室に於て

開催された。時恰も静岡卒業(昭

和十二年)五十年にあたり、在京

クラスメート多数の出席が期待さ

れたところ、偶々同日、今回の世

話人で中心人物の渋谷正敏君が、

疲労による脾臓の腫れにより点滴

加療の緊急事態に見舞われ、他に

も早くから出席回答のあった諸兄

資金カンパに対する謝辞と、来夏

活躍の期待が述べられた。また古

河市在住小沢三郎先生のお便り、

在静代表幹事川野辺芳郎君の懇

書、在京諸兄よりの出欠回答が回

覧され、次々と懐旧談に花を咲か

せ、就中修学旅行時、京都の旅館

での青春のロマンスを披露した苦

米地一樓君の拔群の記憶力には皆

々々脱帽、或は謹厳をもつて鳴る某

々君の秘められた想い出話など献

杯と共に拡がる爆笑又快笑の渦の

なか、流石この年代ともなると地

価高騰に伴う遺産相続の懸念、

墓地霊園入手の苦心談など、五十

年の歳月は斯くも話題の尽きざる

か。正味三時間、ビール、ウイス

キーで歓談、記念写真は例により

今井健三君にお願いし、最後に校

歌岳南健児を銀座の空高らかに歌

い上げ再会を約して散会した。

なお、次回は古稀の会(我々の

年令が数え年或は満年令で)とし

て盛大に祝いたいと云うことで、

幹事に川島喜八郎君と、渋谷正敏

君の再登板が満場一致で決定され

た。

心ならずも今回欠席を余儀なく

された諸兄、特に病床にある諸兄

の一日も早いご回復を祈り、次回

古稀の会に行を共にされるよう祈

ります。

因みに、出席諸兄の顔ぶれは、左記のとおりで、既に悠々自適清閑を楽しんでいる方、今なお第一線にあって、現役に劣らず活躍している方と様々ながら、未だ往年の情熱を失わず意気壯ん、誠に喜ばしい限りである。

(出席者) 今井健三、岩本良雄、遠藤康、大草知久、上林明、樽松恒右、佐藤昌武、直原澄衛、田中貞司、西田豊馬、服部雅雄、広川聡、松永圭司、新美弘

(新美 弘)

五四期

関東五四期会は第一回の同級会が11月14日(土)新橋島森の割烹「太平洋」で催された。

参加者12名に静岡より高橋孝三、永原稔の両君の参加も得て、盛大(?)に行なわれた。

細井君の開会辞のあと静岡を代表して永原君が挨拶を述べ、柴崎君の音頭で乾杯、宴に入った。

積もる話が多いのか、あちこちで塊まって話が尽きず、9時、校歌を最後に会の幕を閉じた。

次に各人の便りを紹介する。

柴崎君 (社) 日本ガス協会に転職してこの月で満16年になります。何とか愉快に快適にやっております。



黒岩君 めったにない機会なので前橋から出席させて頂きます。高井君 まだ郡山で単身赴任の生活を元気にしております。

細井(中川)君 義父が亡くなったので今般細井組会長に成りました。身体も年と共に今迄の様な無理もききませんので歳に見合った仕事をするつもりです。肝臓を悪くして酒が飲めないのが残念です。

居初君 当方不変に過しております目下老人医療——とくに、ぼけ問題で困っております。昔のように大家族の家は少く、看護する人も場所も少いからです。

永原君 5月に静岡県日中農林水産交流協会が設立され会長に就任しました。5月下旬から6月上旬に中国訪問、また10月3日から8日まで家内と桂林を訪ね、若干中国づいてるところです。

そのほか、駿遠林広業援に奮闘中の高橋君、名古屋から東京に戻って元気な鈴木猛君、海軍中將篠原範平君、北海道に長く居たとか佐野(金刺)資郎君、新潟でベクトロッドを作っている福津君、電車の信号機を作っている大畑君、十条で皮膚科の先生平林一郎君等々。

惜しくも不参加の諸君は、



八木君 67才となり第二定年をすぎ失業中です。年金のみの生活……楽ではないが生きています。

磯野修君 小生一昨年一橋大学を定年退職、現在無職ですが、来年4月開講予定の千葉県八千代市「八千代国際大学」に勤める予定です。

佐野圭司君 当日小生主催の学会が開かれますので失礼いたします。皆様に宜しく。

加藤(山本)和史君 まだ元気で学校に勤めております。都合で出席できませんが皆さんによりしくお伝え下さい。

大藤君 元気で過しています。丁度関西への所用と重なり残念ですが、次の機会に出席させていただきます。皆様に宜しく。

山口君 体調今一つにつき欠席させて貰います。不悪。

山田幸作君 一応元気にしていますが少々腰を痛め治療中ですので失礼します。皆様によりしく。

下山西四郎君 昨年六月末で富士銀行を二度目の退職し年金生活に入りました。当日は先約があり欠席します。

杉山茂樹君 皆様によりしく。

盛会を祈ります。

山本博章(一郎)君 都合で欠席。

その他、当日は安東君が会社の旅行、渡辺治郎君は山梨高工のクラス会幹事、山本竜司君は酒を飲みすぎて肝臓をやられて検査日にあたり、残念ながら不参加との便りがあった。

富士宮で「東京の五四季会をやれ」とけしかけていた望月逸夫君から次のように便りがあった。

御案内有難う。米年は必ず出席します。近況は市の医師会長として多忙な日を送っているだけです。が、来年三月には代ってもらうので大いに羽根を伸ばす積りです。孫が七人もいます。

何はともあれ、皆元気で結構。ところで、前頁の写真、どの顔が誰だかわかるかな？

(庵原悌次)

五五期

昭和六十二年十月二十七日、六十二年度の関東五五期会が、いつものとおり、新宿区荒木町の「山宮」で開催された。出席者は次のとおり。

石神庸一、木村康宏、高橋恒三、武井富夫、辻弘、戸塚正五、中田吉信、長沢栄一、法月重雄、松井保治、水上八郎、山下武男、山本武、相川富士雄

(相川富士雄)

五九期

十一月十三日、在京五十九回の集いが、恒例によって新橋の「太洋」で開かれ十六名が参加した。

奥沢徹君の話によると、在京五十九回は昭和二十二年未だ戦災の跡も生々しい頃から連続として続けられ、会場や幹事もまた出席者も幾多の変遷を経ってきたが、静中・静高関東同窓会の設立の頃から二年一回、一回は総会当日、もう一回は十一月頃、いずれも新橋の「太洋」で開かれるようになった。

幹事役はカトリック東京大司教区事務局司祭の青木静男君。また会場の「太洋」はがんの権威者で前群馬県立がんセンター東尾病院院長の三輪深君の静岡女子師範附属小学校時代の友人(女性・県立出身)が経営者で、その縁により安い会費と一流のごちそう。ほかのところでもやろうなどとは誰もいわない。

なにしろ司祭が幹事だから単なるドンチャン騒ぎなどやらない。まず、同期生の誰かが講師を勤めて一時間講演をする。酒と料理を前にして話を聞くのはなかなかの修養である。すでに先述の三輪君の六十才以後の健康についての話、元環境庁事務官清水旺君の環

境行政についての話、元東京大学教授高橋裕君の黄河の話など、超一流講師陣による講演が無料で行なわれてきた。今日は、清水建設

専務内田武二君のお話を聞く予定であったが、海外出張でダメになり、久しぶりに休講、司祭先生も欠席とあって、教室は別の意味で活気にみちて談論風発。還暦あるいはそれをちょっと過ぎた年頃はまた殆んど第二の人生を歩む仲間、経験豊富。その道ではそれぞれ一流の人物が多い。誰が話してもよい話が聞ける筈だという声もあり、次回から講師と二人用意したかどうかなどの提案もあった。つくづく、静中はさすがに天下の静中だ。すばらしい仲間と四十年前茅窓を共にしたものだった。

出席者

青木豊、青山勇、朝比奈正二、小沢将男、奥沢徹、川田昭、佐野英一、藤川礼司、長谷川邦三、原淳本田豊、曲淵景敏、増田真一、三輪深、望月靖久、湯本幸丸 以上十六名

(青山 勇)

六四期

64期の定期会合は、七月七日と十月十日の年二回のため、会報には年末のみ掲載で夏がないのが残念におもう。

念におもう。

七月七日の同期会合は、山本光夫君の御協力で、ホテルニュー神田で開催され三十五名の多数参加を見た。卒業以来住所録にも、住所不明だった、狼谷君(大東証券副社長)が出席され、乾杯の首頭をとった。大村達郎(東芝)君も久



方ぶり。毎回遠路顔をみせてくれる近藤昭蔵。山下啓也君には、感謝の念一杯。我が道を行く増田政雄君等々、盛会裡に幕を閉じた。

秋のゴルフ大会は会場の都合で十月四日に行つたため、常連の名波、岩本、石原君が欠席され、少し淋しかったが、天気は絶好の快晴、気温も上々、黄金色の稲穂の

波を眺め乍ら、青空にクッキリと浮んだ富士へ向って白球を飛ばした。

優勝は風間政彦君、この日のために猛練習を積んだとか。第2位は第一回より連続出場し乍ら今回迄無冠だった村上喜代二君、おめでとくと申し上げる。三位井上公司君、ベストグロスは伊藤剛君、ブービー賞は大坂より馳せ参じてくれた神谷武男君。メーカーは前夜熱海で痛飲、カラオケにハッスルしすぎた山本和彦君。

八回目となると、メンバーも入れ替って来るが、まとまって来て、又来年十月十日が楽しみと去って行った。66期の安田正弥君に世話になり感謝して居る次第です。

出席者

秋山義明、井田寛、倉田徹、風間政彦、伊藤剛、井上公司、望月坦山本光夫、渡辺素夫、塚本光夫、永田進一、村上喜代二、神谷武男山本和彦、大石次男、野沢正憲、

(野沢正憲)

七〇期

五年ぶりの甲子園出場、結果は初戦敗退と誠に残念至極！

静岡市長谷の本部の要請により幹事七名が関東同窓会名簿で、七

十期諸兄姉に電話連絡、出場後援資金協力要請をいたしました。

御案内のように静岡県大会は、日程的におそく、出場決定はシナリより三番目。組合せ抽選次第では諸兄姉への呼び掛け時間なしと云うことで少々あせり気味。抽選結果は確か六日目となりやれやれ。おかげさまで四十八名、金貳拾七万円也を関東同窓会事務局経由で本部に託しました。

御協力をいただいた諸兄姉には領収書が本部より発送されましたので、御確認済みのことと存じます。有難うございました。

今回の協力要請電話連絡は、七十期の皆さん方の消息を伺い得たと云う功を伴いました。結果は次回名簿作成の際、訂正資料と致します。

幹事の話をもとめると、「寄付金を何処へ送ったかと待っていただく」「おれは甲子園に応援に行くぞ」との励ましの声を多く承りました。もっとも中には「野球？関係ないね」とつれない話もあったようであります。

さてここで幹事より本音の愚願を致します。

我が七十期は関東同窓会名簿掲載者、数百三十であります。関東同窓会が会員諸兄姉の年会費をも

って運営されていることは御説明の余地なしであります。最近五ヶ年間の年会費（金貳万円也）の納入状況を御報告、旁々皆様の御協力方を重ねて懇願申し上げる次第であります。

五十八年度 三十五名
五十九年度 四十一名
六十年 三十八名
六十一年度 五十八名
六十二年 十八名

又、関東同窓会及び七十期会に対する御要望、御叱責を幹事宛お寄せ下さい。お待ち致します。

(味岡 宏)

【計報】

鈴木文一郎君が昭和六十二年九月六日早朝御逝去されました。謹んでお知らせ申し上げます。御冥福をお祈り申し上げます。 合掌

七四期

一年の経過は、全く早いものです。昨日正月を迎えたと思つたらもう師走まじかです。この静中・静高会のおかげで同期の人達と旧交をあたためることが出来、大変うれしく思っております。

私共七十四回生は、十二月三日に、今年の反省も含め、有志で忘年会を実施する予定であります。一人でも多くの人が出席出来れば

と、幹事の皆様があればこれと案を検討しております。

過日七十三才になる宇野重吉の全国旅演芸のテレビを見て感激いたしました。胃ガン、肺ガンを克服して、芸とは何か、芸人とは何かを追求して、七十三才の体にムチうって、全国いたる所で見るとの心に人間とは何かを訴えている

回想・隨感 近況など

(藤原経史)

姿を見ますと、誠に心をうたれます。

私も、この世に生まれ何をしているのか、又何をすることが出来るのか考えなおす年令になったのかも知れません。希望と責任をもって、次の世代のためのかけ橋になりたいと念じております。

温州見たまま、聞いたまま

50期 永田 激

ホテルに向う。工場長は四五才、エネルギーで、早口にしゃべる。恐妻家で普段とても忙しいが先生出迎えるため久振りの休暇がとれた由。通訳の葉小玲さんは税関吏夫人で三才、温州科学技術大学卒で機械局勤務、日本語学校で学んだ由。薛婉麗さんは上海駐在員で三十才位。今日はお疲れでしょうと紹興酒をふるまわれて熟睡。

翌日は予園、仏光寺、動物園を廻り、浴徳池で上海サウナを堪能、二二日正午、三千屯位の船で温州に向う。十畳位の二等個室は二段ベッド二組付、船の食事はまずいと乾魚、ちまき、ビスケット、果

物、コーラ等を持ち込む。何時に着くのかと聞いたら「潮加減ですから判りません」と。翌朝十時温州着。工場有志がテキパキと荷物を運び、タクシーで華僑飯店に落ちつく。西瓜を食べながらワイワイガヤガヤ。お土産の水性ボールペンとパンストをプレゼント、インスタントカメラで写してあげたらびっくりしていた。市公務員の葉さんを一カ月間借りてしまう黄工場長の顔と腕は仲々のもの。翌二四日午前はスケジュール打合せ、午後工場へ。熱烈歓迎の垂幕のある玄関を入り二階の工場長室へ。壁に趙首相来訪写真を掲げ、三十畳位の冷房付、男女秘書が片隅に控える。アルバム、サイン帳を見ると有名人の訪問しきり、ここ五年間の急成長振りが著しい。一九八七年工場長責任制が採用され、従来の党委書記との二頭立てが一本化され、私企業方式による営利追求が地域経済活性化の核として認められた。当工場は正にその先端をゆくモデル工場である。電気溶接機、切断機等十二種の製品を造り、昨年八〇八万売上、三〇二万円の経常利益をあげた。工場長の第一関心事は日本では利益分配をどうやっているか、教えて欲しいである。異常な利益率に

おどろき、会計制度のちがいを越え、損益計算書を作ってみると、人件費の対売上比が六％であることが判明（日本では二五％前後）この利益は効率経営の産物とはいえず、経済活性化に伴い人件費は必ずしもそれを吸収するには設備近代化と従業員の再教育が必須で資金が必要となる。だから利益は社内留保せよ。だが超低賃金のいまのうち、委託加工して円を稼げと繰返し説得しやうと諒解、それでは先生を名譽顧問にし、委託加工視察団の温州滞在費は当工場で負担しますと、宿題を頂戴する破目になってしまった。

淡味だが油っこい食事はもたれ下さいというご好意を謝辞、極力日程をつめ、上海経由十月十七日帰国した。

私企業方式の導入は商工業に活気を齎らし、大学教授の三倍の年取一万元（万戸）の金持が産まれた。一方一般の月収は一〇〇〇～一二〇元、副市長一七〇元、葉さん夫婦それぞれ一二〇元、三人家族の月生計費二〇〇～一五〇元（但し食費八〇％、一元約四〇円）因みに当工場平均月収一七五元、工場長五〇〇元、温州市の人口五〇万人、近隣農家一戸当耕地三ア

ールと中国でも最下位に近く、米の食えぬ貧民は三分の二の余剰労働力を抱え、これが労働予備軍として低賃金を支えている。従って工業化によりこれを吸収しようというのが当面最大の課題であるらしい。

十月一日は国慶節と先生の誕生日が重なるとお目出たい、と工場長宅に招かれ、十月七日は仲秋の宴ですと、葉さん、王さんの家族に囲まれ、葉さんを同じホテルに泊らせて、三度の食事にも不自由させまいとの心くばり。工場長は、先生が無報酬で我々を指導して下さるという北京からの知らせに感激して、万事遺漏なきを期し、一万元は使ったでしようという葉さんの話。渡航前の話との食い違いはあったが心のこもった処遇は近來稀な快味であった。社会主義世界の経済レベルは、その国指導者の倫理的水準や欲望抑制力の強弱によって決まるのではない。

我々は何かに追いかけてられて駆け足で毎日を送っているのに「潮加減です」と悠然と生活している民族が一衣帯水の近くにいることは大きな驚きであり、人生八十年どちらが本物の人生か考えこんでしまった次第である。

大極殿

53期 徳永 悠久

第3の人生に入ってから一年半を過ぎた。その間、古墳遺跡の見学・社寺仏像の拝観に楽しみを感じているが、その一環として十月上旬に京都見物に出かけた。京都の寺社は静中時代の修学旅行以来50年ぶりの拝観であり、当時の記憶を思い出して楽しい3日間を過ごしたが、久しぶりの京都の町は予想外に、清潔であるのに気付いた。町の人に「自分の責任としてやっているのか」と聞いたところ、げんげな顔をされた。習性となつて、毎日掃除打水をするのが当然となつていたためである。心暖まる気持となった。

旅行の3日間は他の観光者と同様に、清水寺・三十三間堂・知恩院・宇治平等院・黄檗山万福寺・嵐山・平安神宮外と盛り沢山なものであったが、何れも旅行紀行文などに記されているので、気楽な見物であった。しかし、東寺境内に散在する数十個の礎石など調べたら面白いと思われる事項も数点見出された。そのうち、平安神宮については、疑問点があったのでここに一文を書いて皆様の御教示を得たいものと考えた。

応天門から神宮内に入ると正面に大極殿があり、その前庭向って右側に左近の桜・左側に右近の橋が植えられている。ここで私は、左近の桜・右近の橋は紫宸殿前庭にあると教えられたことを思いました。悪源太義平と平重盛が業くらべをした故事と、堀保己一の句（後記）から、また現在の歴史辞典などから紫宸殿に植えられていたことは間違いない。そこで説明者にこの大極殿は紫宸殿の間違ひではないかと質問したが大極殿に間違いないとの返事であった。疑義を感じたので、旅行後、この件について調べたところ、大極殿は1177年（治承一年）の火災で焼失し、それ以後は再建されず、それまで大極殿で行われていた政治祭祀は紫宸殿で行われるようになったようである。その後、何れの時代からかこの紫宸殿が大極殿と呼ばれるようになったのではないかと推測する。或は古い大極殿と紫宸殿は全然別なものであり、それぞれ別の場所に建てられていたものであるかも知れない。古い大極殿が何処にあったか調査する暇もなかったため、今後調べたいものと考えた。

第3の人生に入って、改めて歴史の勉強を始めた帰り新参者の浅

い基礎知識からの推測であるので、私の推測が間違っているのかも知れない。この経緯を御存知の方の御教示を得ることが出来れば幸と考える。

「後記」堀保己が中秋の明月の夜に、盲目の哀しさから月を見ることが出来ず、せめて桜を撫でたいという思いから「目に見ねば せめてなでんの桜かな」の句を作り、それに答えて夫人は、「明月は座頭の妻の泣く夜かな」と返句した。ここで、保己一（なでん）は紫宸殿を別名南殿（ナデン）と撫でんをかけたものであり紫宸殿の桜に触れて見たいと云うことである。夫人の返句の座頭は、保己一の枕もとと盲目の主人とをかけたものである。（美談逸話集・講談社（50年程前の出版物であり現在は絶版書と考える））」

事故

55期 山下 武男

六月十一日（日）一六三〇頃ゴルフセンターにて練習中ドライバースhotsの自己打球が打席近くの何かに当たりその跳ね返りボールが左眼に当たり負傷す。直ちに救急車にて東京目大附属板橋病院に収容され即日手術、入院となる。

六月十二日(月)〇四三〇頃麻酔より目覚む。左眼底に重く激む鈍痛あり。両眼閉じ誰かわからぬど付添いの看護婦、手術後の処置をてきばきと処理しつつ我が奇禍をやさしくいたわり呉れる。

これは昭和五十三年六月、私がゴルフ練習中の事故により、一か月以上の入院生活を余儀なくされた、その当時の入院日誌の一部である。

最近の人気スポーツのうち、ゴルフは余暇開発センタ一の発表によるレジャー白書によると、昭和六〇年度の国内ゴルフ場の数は一四六一で世界第三位、ゴルフ人口は約一〇〇〇万人と報じられている。そしてその大衆化に伴いマナーの低下を嘆く声も高く、一瞬の不注意やちょっとした油断から思わぬ事故が起きている。

静中静高の同窓の皆様にもゴルフ愛好者は多いと思う。以下はあまり自慢できる体験ではないが、私なりに考えているその事故の概要と原因を述べてみますので、何と下手なゴルフをしたものかと笑わずに一読されて、皆様がゴルフを楽しむ際に、なにがしかの参考になればと思いあえてペンをとりました。

「事故発生までの状況」

一、ゴルフ練習場は自宅に近いが練習は二回目であった。打席数は一階だけの四十席。ほぼ中央の打席で、たしか右隣りの一人、左隣りは二打席位空いていたように思う。天候は晴、前線が接近中で、時折り突風気味のかなり強い風が打席のほこりを巻きあげた。

二、初め打席の定位置でティーアップし練習を始めたが、折からの風のせいもあり、構えてからインパクト直前にティーの上からボールがころげ落ち、拍子抜けがするようないことが何回かあった。

三、よく見るとゴム製のティーの軸が垂直でなく少し傾いているような気がしたので、念のためゴムマットをめくって地面を見ると、雨水が浸入して地表が荒れ、ゴロゴロした部分にティーが乗っているため、傾いていることがわかった。

四、そこでマットを射線に沿って三十程程後方に引いてみた。(当然スタンスの位置も走位置から三十程後ろに下がったことになる)五、その結果、ティーアップは確實になったので、五番アイアンでしばらく練習を続けた。大体ショットも安定し、体の堅さもはぐれたのでクラブをドライバーに替えた。なお三十発余りフルスイングを続けた。

六、事故の瞬間のインパクトの感覚はクラブヘッドの芯に軽く当たった感じであった。(従って打球は極端な打ち損いではなかったと今でも信じている。)インパクトから顔を飛球方向にあげ始めたその瞬間、左眼にバットで振りつけられたような猛烈な衝撃を受けた。

【原因と反省】
一、直接原因は、打席屋根先端の構造物(直径約十五程の鉄パイプ)に打球が当り跳返ったボールが運悪く左眼を直撃したものと推定される。

一般にゴルフ練習場におけるマナーとしては、次のようなことが常識とされている。

一、子供づれ特に幼児は絶対につれて行かないこと。
二、レッスンしている人と人との間に入らないこと。
三、定位置できちんと打つこと。
四、クラブを横や斜めに振らないこと。

今にして思うと、私の場合三のルールに違反して打席を定位置から三十程程後ろに下げて打ったため普通では当たらない筈のものに打球が当り事故となったわけで、改めてスポーツにおけるマナーやルールを守ることの大切さを、文字

通り痛感させられた次第である。

二、副次的原因としては、ゴルフ練習場の建物の構造上の問題が考えられる。現在ゴルフ練習場の建物の構造や寸法など特に規格基準のようなものはなく、設計を担当した建築士の考えにより、たとえしろうとが打ち損ったような場合でも危険がないように個々に決められている筈であるが、打席などの場合、一方で雨天の際雨水が打席に降り込むのをできるだけ避けたいという要求もあるはずで、屋根やひさしはなるべく低く、その先端の位置は安全上の限度ギリギリで決められているような危険性を持った練習場もあるという点に注意する必要がある。

文武両道は

恥ずかしかった

60期 筑間 達男

昭和二十四年からやっている高校教師というジョーバイも定年退職が眼の前にきている。

教職歴は人のうらやむ私立女子高校から始まり、最後は都立芸術高校という珍しい学校で終わる。芸術高校では、この夏も空手道部の生徒が東京都代表で高校総合体育大会団体に出場した。女子団

体は今年で十二回連続出場し優勝一回という成績である。都内では「都芸を倒せ」というのが女子空手道部の目標になっているそうだ。高校総体の団体には甲子園と同じように各都道府県から一種目一校しか出場できないからである。

芸術高校の今年の代表も中学時代は全く空手の経験がなかった生徒ばかりである。空手道部の練習は、ふだんは週三回に決められている。生徒も一学年八十名というちいさな学校である。それでいて経験も練習量も多いといわれる他の学校を寄せ付けず連続出場できたのはなぜかとよく質問される。芸術をやっている生徒は集中力があるので、練習成果があがるのだという説明もあるが、要するに今までは女子の空手はマイナーなスポーツなので、このような成績をあげてきたのだと私は考えている。

生徒のアウトブットはそう悪くない。東京芸術大学進学を例にとると音楽学部には毎年十名以上、美術学部には三〇五名というところである。生徒数から見ればスゴイ!といってもいいだろう。大げさに言えば「文武両道」ということになる。

確かに空手道部の生徒で芸大に

合格する生徒もいる。空手部のOB会をやると芸大のセンパイがワッサと集まる。それに刺戟されて空手道部には一年生が大勢入部する。しかし空手をやっていないで芸大に合格する生徒の方が多い。

だから、空手道部の生徒に「文武両道」と励ますのは適当であるが、学校のスローガンとして「文武両道」とするのは適当ではない。

今年の甲子園では静岡応援席に「文武両道」という横幕があらわれた。エリート意識まるだしで私は大変恥ずかしかった。

今の甲子園野球に静岡高校が出場するのは大いに結構なことだと思ふ同窓生は多いだろう。それはプロ化した高校野球にアマチュアリズムを取り返すという意味もある。しかし、私の知っているいくつかの甲子園に出ている学校の内情から予想すると、静岡ではどのようにして優秀選手を集め、訓練しているのか？そのノウハウを公開したら、良識ある同窓生は、「そこまでしても何年に一回かは甲子園に出場しなければならぬのか」と驚くのではないだろうかと思像する。

甲子園出場経験では全国で屈指の母校であるが、アマチュアリズムを固執していたのでは県の子選

を勝ち抜くことは困難である。なぜなら甲子園に出場する高校野球は高校教育の枠をこえたセミプロ的になっているからである。

現在の高校では、教育活動としての体育部の活動は高体連という団体に統合されている。しかし、野球だけは高野連という独立した団体を作って活動している。これには夏は朝日、春は毎日というマスコミがスポンサーとなり、それに読売という音頭とりが加わり、更にNHKという提灯持ちがいて甲子園という国民的行事を演出している。これは高校の正常な教育活動を妨害していると私は思う。

もし、甲子園を肯定するとすれば、野球だけが取り柄という子供たちにも甲子園に出るとい希望を持たせてやりたい。

教育の個性化の時代に「文武両道」なんてスローガンは何としてもダサイと私は思うのである。誤解されないために言うと、部活動の生徒に「文武両道」と励ますのは賛成である。私もそれほど強くない柔道部にいたが、「文武両道」を目指したものだっし、それが役立ったと信じているからである。

二科展初入選を果して

64期 栗田 行雄



今年の八月は、滅多ない出来事が二つも続いて、私にとつてとても思い出に残る夏となりました。

その一つは、勿論、この年になって、やっと二科展初入選を果した事で、もう一つは、娘と友人親子の四人で十日間二千キロの北海道バイク旅行を完走したことです。

水戸大洗を出たフェリーで苦小牧に上陸してから、日高、トムラウシ、阿寒、川湯、摩周湖、尾岱湖、羅臼、網走、幌加内、留萌、小樽、札幌と周ってきました。

雨や寒さにたたられ、発熱した娘の看病と云うおまけまで付いた愉快な旅でした。

八月十五日に東京へもどり、二十三日が二科展搬入日で、大体仕上げて出かけたのですが、帰って

からの四、五日は頭はボーッと、肩はパンパンで製作に大変支障をきたし、まだ詰が甘い反省しているところですよ。

出品作は民芸品張子のペコをモデルにした各五十号で、一方は貿易黒字を世界中からたたかれないがらお非を認めたがらぬ、たくましくも小ずい日本企業の顔、もう一つはいつもいつも割を食いながらも忍の一字、少々ニヒルながら優しいお父さんの顔でした。

結果はいつもそうであるように胸を張り、バーミリオンとカドレットの絵具で赤ら顔にした社長の顔に、私の好きな哀れな庶民の顔は負けて落選しました。

小生三十七才で銀行員をやめ、女房と二人画材店を始めたくらいですから、もともと絵は好きだったのですが、ほとんど自己流で、気儘に書き続けてきただけに、今度のようなことになるややはり嬉しく、特にいつもけなしてばかりいた女房は少々自信をもってくれたようですよ。

「やったね」とか「先を越されたな」と云はれると、いささか鼻が高くこの次は何をしてやろうかなと考えているこのごろです。

銀婚珍道中

68期 萩原多賀男

私たち夫婦はことし結婚25年目を迎えた。銀婚式というわけである。「記念にこれ以上を年をとったらできっこないことをやっておきたい」と云い出したのは結婚以来ずいっと二歳年上を続けている家内である。家内の里は掛川だ。



埼玉県春日部市の武里団地からここまで自転車で行ってみようということになった。ふだんから自転車には乗り慣れているとはいっても、の、せいぜい一日三十キロどまり。掛川まで二百六、七十キロはある。仕事の都合で走行日程は

四日間だけ。メノコ勘定でも一日七十キロ近く走らなければならぬ。

しかも自転車はギアのあるサイクリング車ではなく、前かがついた実用車である。これで五十も半ばを過ぎた夫婦者がギタンバタン箱根や宇津谷、日坂越えをしようというのだから、はたから見れば氣狂い沙汰である。

私は内心「こいつあ困った」と思ったが、口数の多い家内が団地中ふれ回ってしまったので引込みがつかなくなってしまった。

連休の五月二日午前八時、家内の友人数人に見送られて団地をスタートした。しばらく走ったらその友人の一人が自転車で「オーイオーイ」と呼びながら追いかけてきた。団地はずれまで伴走してくれるのかと思ったら、家内のリックサックを振りながら「忘れ物だよー」。やれんなあ。先が思いやられるとはこのことだ。

コースはいったん都心に出て第一京浜を走ること考えたが、かなり大回りになる。そこで、あの三億円事件で通い慣れた団地―浦和―志木―新座―清瀬―小金井―府中を経て町田を抜け、厚木へ出るコースをとった。

町田に入ったあたりから雨にな

った。ジャンパーには防水液を塗っておいいたのだが浸み通ってしまった。家内は大きなビニールの真ん中に穴をあけ、そこから首を出している。ビニールがばたつくので胴をひもで巻いているのだが、どうひいき目に見てもホホズキカテルテル坊主の化け物である。

一泊目の厚木を出て藤沢で初めて国道1号線へ。車道は危険なので、歩道を走りつづけているのだが、このあたりまで来ると、わずかな段差でもズシンとこたえるようになる。おしりのほったまも痛い。

この日の難関は箱根である。午前十十一時に湯元から登りにかかった。旧国道は行けども行けども登り坂である。自転車に乗っていたのは最初の二百メートルばかりであとは引っぱって歩く。登りがあれば必ず下りがあると自分に云いきかせながら歩くのだが、足はもつれてくるし、のどはゼイゼイしてくるわで、家内に声をかけてやるなどという余裕は全くない。

五時過ぎ、やっと芦ノ湖へ着いた。やれうれしや、ここから下りだと思ったのも束の間、箱根に外輪山があることをコロッと忘れていた。ガクガクして重い足が余計重くなる。箱根峠を登りつめたところ

で「静岡県」の標識を見つけた時、家内は「バンザイ」と叫んでいた。

下りはブレーキをかけ放しで四十五分。沼津泊まりである。

翌日はまた雨。駅伝で走った思いの岩淵―蒲原間は意外に短かった。「ここで疲れた」と家内に話かけるのだが、向かい風のため怒鳴らないと通じない。夫婦げんかしながら走っていると間違えたのか、振り返ってしばらく見ている人もいた。

やっと静岡。同期の「京橋」の一ノ瀬君のところへ寄ったら、あきれ返って歓待してくれた。

翌日掛川に着いた。自転車は宅配便で送り返したが、新車が一台買えるほどとられた。自宅に戻ってしばらくしたらシリの異変に気がついた。見せ合ったら二人とも一面にカサブタ。これがホントの「シリアイの仲」というものだろうか。

ことば

76期 鈴木 浩

日本語が乱れてきたというのはもう大分古い話題ではある。

私は職場等で耳にする若い人の直感的な表現を、必ずしも耳障り

だとは思わない、理解不可能なものに別にしてもそれなりに面白い表現も多い。結局、言葉は生きもの、時代と供に変わるものだし、流行語等はじきにすたれてしまいが、やはり少しずつ変わっていくのだろう。若い人の会話にはもう女性、男性の言葉上の区別は非常に少なくなってしまったようだ。

いずれは英語等のように男性女性の区別のない言葉になってしまいかもしれない。

ラジオ等で国語学の先生が嘆いておられたが、外来語が目立って多い最近を見ますと、世界が狭くなって来たことでもあるし、何世紀もの後には、エスペラント語ならぬ真の意味での世界語が、自然に出来あがってしまうかもしれない。それと供に本当の世界の平和が来れば良いのですが、日本が世界国家の一つの県の様になったりして、しかし何はともあれ、まさに電話等で聞く静岡のイントネーションがなつかしくて、というのが本音です。(鈴木 浩)

(追記)

幹事会にはまったく欠礼の連続で申し訳ありません。

江の島会

九月六日恒例によって江の島会総会が恵比寿屋で催された。今回は第四十回記念大会という事で、予て村松会長が熱心に企画し資金記念品等の準備を進めて居られたのであるが、残念な事に会長は二月に発病されて療養中の為に有志協議の上奥沢幹事が中心となって会長の企画をそのまま実行する事とし、会長のお宅と連絡しつつ具体的準備を進めたのであったが、降り続いた秋雨も遠慮したらしく当日は晴れて青空に夏の日差しを名残惜しむ様に賑う江の島日和となった。

参加者四十名、静岡から同窓会川村副会長以下の有志、関西から43平山桂53志田清の両氏、富士から59勝呂清氏等の来賓もあり盛会であった。

総会行事は奥沢幹事の司会で計画に従い会長代理月見里副会長の挨拶、同窓会本部から川村副会長の祝辞、杉山幹事長の近況説明、針谷理事の新校舎設計のアウトライン説明があり、関東同窓会から上杉副会長の祝辞、関西支部から平山桂氏の祝辞、志田清氏の近況説明があつて議事に入った。議事

は月見里会長代理が議長となり、奥沢幹事から事業及び会計の報告

井出監事から監査報告があつて異議無く承認された。次いで記念行事として初回以来会場その他のお世話を頂いた恵比寿屋会長の三十五回生永野清氏に感謝状を贈り同氏から謝辞と共に創立当時の経緯等が話された。又議長から創立以来会の中心となり自ら会務を執つて来られた村松会長に感謝とお見舞の意を表す事及びその方法につき諮問し、お見舞金を今回出席者一同が醸出し事務局が取まとめ贈呈する事として総会を終る。

記念撮影の後成岡幹事の司会で懇親宴に移り四十三回生今井志郎氏の指揮で校歌、当日最先輩の三十三回生小山亮清氏の首頭で乾杯懇談に入った。

九十才に垂んとしてお元気に出席の小山先輩から御専門の薬学から見た食品と健康についてのお話、同級生的美濃部前都知事は牛窓を好んだので早死であつた、五十才からは魚肉と野菜を主とすべき事、又耳類の制癌成分は柄の石突部に集中して居り傘には無い事等々、更めてお膳を見れば海の幸が並んで居るので一安心。関西支部の平山先輩から京都つる家での懇親会のお話、つる家は六十七回

生中山静夫氏の経営で近くの薬草園見学もあつて好評の由。

お酒の方も御機嫌に廻つて来た所て歌のお時間となる。甲子園優勝当時の応援団長井出先輩の応援歌、若い期の知らない歌詞もあり記憶の確かさの張り、お若い。

野崎先輩の静岡二十日会祭お練り



の木遣歌、古式床しくも亦力強い格調に感銘深い。続いて立つ若い者(?)星野兄貴の号令に六十八回以降の青年十数名が舞台上に上り追遙歌、若々しい歌声が会の未来を呼ぶ。

飲は尽さないが四時一応中絶とし野崎先輩の発声で万才、解散し

た。例によつて橋の上の屋台で二次会、成岡幹事設営で六時頃まで潮風と海の幸を楽しんだ。

(月見里記)

【付記】

村松会長は今年二月に病気で倒れ、神奈川県七沢リハビリテーション病院に七月下旬迄入院治療され、次いで大阪箕面市ガラシア病

院に転院八月中旬に無事退院されました。現在は左記娘さん宅で奥さまお孫さんと一緒に毎日元気でリハビリに励んでおられます。

転居先

〒562 箕面市牧落三ノ十五ノ四

村松 直

(〇七二七—二四—〇七八七)

静岡だより

献体

今年六月六日朝、大正十五年齢中甲子園優勝投手、上野精三さんが亡くなった。

野球一筋の人生を送った上野さんの盛大な葬儀を予想していた。しかし、意に反して通夜も葬式もなかった。数人の身内に看取られた上野さんは、二時間あと、北里病院に運ばれた。「献体」である。

小柄で華奢な上野投手は、柔かな、しなるような腕の振りをしていて。所謂「猿腕」である。全身の捻りを利用して、理に適ったフォームから、打者の手元でびるストリート、大きく落ちるカーブと生きたボールを投げ分けていた。軟投型である。

全国優勝の時には全試合完投、とくに前橋中学19回、高松商業、決勝大連商業は三日の連投であつた。

静中時代、三年間に80試合投げて61勝19敗の成績を残している。その後、慶大、ノンプロの京城クラブ、藤倉工業と投げ続けている。

その間ただの一度も肩、肘の痛みもなく、ピッチャー独特の軟骨のできた経験もなかったという。よほど柔軟で強靱な筋肉の持主である。

そんな上野さんは、

「肉は衰えても筋は変らない。自分のような故障を知らない筋肉が野球や他のスポーツの選手

の参考になるなら、自分の体を提供したい」

と奥さんと話合いの上「献体」を決意したのである。

今病院の研究室で深い眠りについている上野さんが甦るのは、六十二年十二月だといふ。その筋肉の秘密が明らかにされて将来役立つ資料となれば、野球一色だった上野さんの人生に新たな彩を添えることになるだろう。

後援

今夏の甲子園出場に、同窓の諸氏より暖いご支援を頂きましたこと、本会報をかりてお礼申し上げます。

後援会、同窓会と幅広い、しかも底力のある応援が、野球部の支えになっていること、痛切に感じています。

支援組織は、実は大正二年に端を発しております。全国優勝を期に、その基盤も充実、そして昭和初期の黄金時代に入ります。八年までに春夏11回の甲子園を経験。その際には丸尾晋、鈴木金苗、加藤周蔵、小淵方輔の諸氏を中心に数多くの支援者がおりました。

脈々と流れている伝統の力を感じたのは、戦後の支援活動の力強さでした。域内に校舎のあった昭和二十二年秋、43期の有志を中心

に発足した後援会、その成果は、翌二十三年16年振りの甲子園出場となって実を結びました。

ここで、野球部の伝統復活の基礎ができました。

その後、中心となる期は47期、53期、59期と受け継がれて、今日に至っております。

甲子園出場は今年で春夏32回、戦後だけで17回となります。出場の都度の後援者の方々のご苦勞を思い出して、そのご苦勞は大変なものであった、と感謝しております。

「進学校」という厳しい条件の中で「甲子園」は至難なことです。しかし、他校に抜きんで、一味違ったカラーを出すことが静岡の野球である、と関係者一同努力し期待もしております。

今後とも、諸氏のご支援をお願いする次第です。

伝 統

甲子園に出た母校に、なにか特色はないものか、とデーターを調べた。一つだけあった。部員の数。鳥取の八頭高と同じ部員数33人、出場校中最も少なかった。

最多は浦和学院147人、平均68人。半分の人数で甲子園出場、いろいろ苦勞も多かったことだろう、とその点はめられてよい。

関西との試合は、「一回の攻め

でリズムを崩してしまつた」という船川監督の話とおりの展開に終始した。ドラマもなく、詩も感じられない、盛り上りを欠いたゲーム、気がついたらゲームセットになつていた。またしても初戦敗退

である。

過去19回出場は、中京22回、広島20回に次ぐもの。この両校はそれぞれ6回、5回と全国制覇している。母校の戦績は優勝1回、準優勝2回、甲子園での全試合は36、18勝18敗、そのうち初戦で負



第69回全国高校野球選手権大会開会式の入場行進

東海の雄、静岡・中京・県岐阜商、明野が揃い踏みしたのが……

けが実に10回になってしまった。

因みに、地元静岡は8回の出場で24試合16勝8敗、初戦の敗退はナシ。

甲子園出場組7人残った新チームへの期待は大きかった。

指導者がコトバで十分説明、納得させて教え込んでいないこと。

選手が自分たちの役割を自覚していないこと。チームに目標意欲のないこと。新チームの練習をみて気付いたのはこの三点であった。

公式戦には力が発揮できず、中部大会出場を賭けた静岡戦に破れる、些細な練習試合には楽勝するこんなパターンで結局来春への希望は消えてしまった。

「伝統」も古いがゆえに貴いのではない。長いがため却って澁が溜っている、その澁がなんであるか、自認自照して、取り除く努力をすること、これが今後の野球部の課題である。

新 校 舎

「新学舎」の建設が着実に進んでいる。

九月十日に、静岡市城北の自治研修所に移転が完了。

十月二日、工事安全祈願祭が行なわれた。

完工予定は六十三年十二月十五日である。(67期 法月都雄)

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶 原 由 三 (67期)

東京都中央区八丁堀2-1-7 神鋼ビル

TEL 03-553-8981 (代表)

建築設計・監理

ユニオン設計センター

代表取締役 成 岡 英 彦 (67期)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル

TEL 03-363-8604 (代表)

「こえ」

気軽に筆を執って
お送りください

43 西沢 純三

静岡の三笑亭で毎月二〇日開催の定例の午餐会に出席してきました。焼津の近藤久一郎さんが静岡に移転されて始めて今度(七月)出席され、私も久しぶりで歓迎されて拾名集りました。来年は卒業六拾年に当たりますのでクラス会を開くとの事です。多数御出席下さい。

43 坪 晴行

御無沙汰しています。満七六才を少し出しましたが健康です。数年前、国立水戸病院院長を退職して、以来、保健診療の審査や、当地の大学・県立・国立の学校等で講義などしています。自宅の周囲の畑の作業など、楽しみながらやっています。よろしく。

47 吉見 四郎

おかげ様で何とか元気にして居ります。

48 奥山 正

年々同期の方が減り、淋しい限りです。小生も病気をしたり良いことは無く余生を大事にしたいと思っています。

49 直原 敏衛

我々の同期会は毎年九月に静岡で行って居り、常に四十数名は集っている。東京組も八名位は集るが、関東支部の同窓会には集る者が少いので、自然足が遠のいてしまう。

又、年会費もその時に払うので此方には失礼する事が多く恐縮です。

49 伊藤徹次郎

同窓会に同期の者の出席が少く甚だ残念です。

50 江川 友治

この頃、教え子の結婚式での祝詞、後輩の学会賞受賞式での祝いの言葉、先輩の喜寿のお祝いの祝詞など、挨拶をたのまれる機会がやたらと多くなった。その都度、しゃべる言葉を考えて苦労する。どなたか良い参考本でも教えてくれませんか。但し、薄謝は呈しません。

51 伊藤 渾吉

冬になると天竜川や大井川の奥で山鳥を追うのが楽しみです。さっぱりとれません、きれいな空、水、太陽の中での森林浴は最高です。

一年毎に脚力が目に見えて低下するのが判ります。

52 一 誠

既に第三の人生に入り目下都内の造園会社勤めています。六十才の現役です。働ける限り働くつもりでいます。幸い健康なので長続きしそうです。

52 茂呂 茂樹

本年四月から武蔵野簡易裁判所に移りました。民間の時とはちがつて勝手に休むわけにも行かず、うっかり風邪も引けません、お蔭で元気でやっています。

52 今井 健三

52期の同期会(東京)には必ず出席していますが、関東支部の同窓会の開催日には都合がつかず出席が出来なかった。来年は必ず出席したい。

相変らず機精光社には常勤しています。家族も皆元気です。長男(三菱重工課長横浜)、次男(三菱重工長崎主任)、長女(富士通)それぞれ家族共元気です。

52 風入 武夫

今年の四月から一切仕事の関係をやりましたので、御承知願います。現在無職でおります。

52 遠藤 廉

残照の人生を噛みしめながらお蔭様で元気に過しております。同

窓諸兄姉のご発展とご多幸を祈ります。

52 石野 浩一

名簿の勤務先は従来どおりですが、役職は相談役に変更して下さい。殆んど出勤はしていません。脊椎手術後のリハビリを自宅でやっています。

52 直原 澄衛

母校野球部の五年ぶりの甲子園出場！

やはり嬉しい事であった。短時日での後援募金の為、服部・広川・小生の三人で手分けをして電話をかけまくったが、諸兄の協力により忽ちの内に募金に協力出来た事に對し、唯々感謝あるのみ。

53 桜井 昌也

久しぶりに甲子園で「岳南健児」が聴けると思いましたが残念でした。五〇〇〇円の内三〇〇〇円は甲子園行き寄付、二〇〇〇円が会費です。

55 鷲巢 英策

満65才となりました。今回をもって払込みを終ります。さようなら。

55 木村 康宏

長い間お世話になりました。皆様お元気で。仙人志望。

本年十月には、六五才になります。まだまだゴルフの球の飛びも

年の割には維持しています。

55 野中 篤

静岡の

岳南健児友がきと
共に学びし頃やなつかし
なつかしき

静中時代かの友の
まぶたに浮ぶ若き日の君

55 戸塚 正五

お蔭で健康にだけは恵まれ、相変らず毎日大宮まで通勤しています。

57 岩井平一郎

商用のため本年の総会に出席出来ませんで、申し訳ありませんでした。会費がおくれましたがよろしくお願いします。奥野社長によりしく。尚、山田さんの日頃のお世話に厚くお礼申し上げます。

58 鈴木 勝義

一年余にわたって入院生活を送り、ようやく回復致しました。その間ご無沙汰致し申しわけありませんでした。今後共支部の発展をお祈り致します。

58 猪瀬 忠實

このところ関東同窓会にはすっかりご無沙汰いたし申しわけなく思っております。八年前、第二の人生として選んだ図書編集の仕事に忙殺され、寸暇もない毎日を送っております。幹事諸公のご苦勞

に感謝しつつ、会の発展を心からお祈りいたします。

58 世古 真臣

2年前に40年振りに静岡に行き母校にもよせて戴きました。恰度四月で桜が美しい時でした。学校の校舎は一部が記憶に重り大変なつかしく、古い校舎の一部も歩かせて戴きました。戦争を含め、40年前が夢の如く過ぎ去る思いでした。

58 伊藤 健三

兄伊藤敏夫(38期)は昭和61年4月16日死亡しました。

59 湯本 幸丸

今年は甲子園に駒をすすめながら一回戦で破れたのは残念です。来年又頑張ってください。蔭ながら応援しております。九月十五日、敬老の日に、59期生の在京中の有志8名が集まることになっていました。今から楽しみにしています。住所と勤務先が変りました。

59 勝呂 清

甲子園は、来年に期待しています。スケジュールがかみあわず、総会に出席出来ませんでした。

59 望月 靖久

学校卒業以来、民生ニレクトロニクス(主に音響機器)の仕事をしてきましたが、最近は大高で一つの曲角です。

この頃は静岡に頻繁に帰って居ります。

60 新聞 昌輝

前略62年度会費です。ご査収下さい。ダブって送ったような気がするの、歳の故か?暑さの故か?事務局御一同様のご健勝を祈っています。

夏の甲子園、うまくやって欲しいですね。それと静岡の晩秋の澄み切った紫の富士山を近々と見たいものです。草々

60 時田 正康

毎日あわただしい気象業務にあけくれています。ストレス解消は美術館めぐり。この一年の感動の出会い、東山魁夷の「白夜」菱田春草の「王昭君」などです。

61 浅野 徹治

十年前、銀座から日本橋人形町に事務所を移し、その間、堀留にかけて四つのビルに分散していましたが、此の春、木場のビルに集合致しました。川向うも、昔と大分違っています。住宅から超高層ビル迄。是非、御用命下さい。

66 小林 成敏

昨年末、病に弊れて約二ヶ月入院しましたが、私にとって初めての経験で家族には大変迷惑をかけた。退院して今では徐々に回復して

来つつありますが、健康が如何に大切かを身をもって体験した次第です。

皆様の御自愛のほど切にお祈りします。

66 尾入 泰彦

この夏NHKを定年退職いたしました。

66 小林 五郎

久方の甲子園出場とあって、田中幹事の骨折りもあり、都内某所にて66期有志10人程で県大会決勝戦のビデオを観戦する機会に恵まれました。その場で若干の資金カンパもしましたが、本番一回戦敗退は残念でした。でも久々の会合で旧懐をあたためたのは大いに意義がありました。

66 安池 智策

甲子園出場の好機会に妻と一緒に対関西高戦に応援にかけつけました。同期生に四十年ぶりに会ったりして、楽しい一時を過ぎました。

66 塚本 浩司

これも現役生のおかげで、いい思い出をつくりました。二年生が多いのでセンバツ出場を大いに期待しています。

67 大森 恵吉

今年当地は冷夏です。涼しいというより寒いくらいの日々がつづいて、扇風機も出番がない夏です。

70 山本 雅司

最近静岡に帰省する機会があり同窓の諸兄と懇談する楽しさが多くなっています。

た。それにしても甲子園は残念でした。又来年に期待します。

68 斉藤 武

ご無沙汰しております。今日、会員名簿・会報拝見させていただきました。懐しく楽しく一人一人の顔、三十五年前の姿、学校・校舎・校庭一つ一つを思い出しました。名簿・会報御送付いただきありがとうございます。

68 吉崎 英輔

御挨拶も出来ないまま三菱商事のシンガポール支店長として七月十八日赴任致しました。今年度の会費は収めさせて頂いています。海外勤務者への特別措置はないものでしょうか。

74 藤原 経史

円高騒ぎ、売上税騒ぎ、半導体騒ぎ等々、次々に嵐が来しました。とりあえず一段落してこの8月、約三〇年ぶりに白馬岳へ登って来ました。お天気はダメでしたが、流石は花の白馬、それはそれは見事なお花畑をたんのうして来ました。この次はどこへ行こうかな?

80 太田 寛

いつもお世話様です。同窓会には仲々出席出来ませんが、今後共よろしくお願い致します。

80 田中 穰

教育関連の事業をやっております。この度、東京芸術学院、第一高等学院を設立し、各々理事・理事長に就任しました。

80 深沢 直行

だきなつかしく拝見しています。最近、野球部が甲子園に姿を見せないのが淋しいと思っていたら今夏は見事に復活し、これからの活躍に期待しています。

74 石川 富規夫

前号の通信欄で、不況業種アルミで呻吟する小生の会費納入が川鉄・中西君の振込のきっかけになったことを知りました。妙なところで役に立ったものだど苦笑しております。

74 木村 敦

多忙にかまけて、つい欠席がちですが、常に静岡の山、谷、風物、学校時代など想いをはせております。

74 藤原 経史

74回期生の幹事でありながら、仕事の関係ではほとんど幹事会に出席できず申し訳ありません。

80 太田 寛

いつもお世話様です。同窓会には仲々出席出来ませんが、今後共よろしくお願い致します。

80 田中 穰

教育関連の事業をやっております。この度、東京芸術学院、第一高等学院を設立し、各々理事・理事長に就任しました。

80 深沢 直行

年会費を五年分も滞納していた
そうですが申し訳ありません。

知らない間に関東支部の会員に
なっていた様でして……

静岡野球部へのカンパのついで
に会費納入したというのが実情で
して重ねて申しわけありません。

86 白鳥 健次
長女が男子を出産、実家で産後
の静養中ですが、折からの選挙の
真最中、選挙カーの音声で赤子は
寝つかれず、母子ともにいらいら
の毎日です。

87 植村恵美子
現在本人はロスアンゼルスに在
住。

87 安倍 敏陽
幹事の皆様、お忙しいところい
つもご苦勞様です。私自身、同窓
会に出席する機会がなかなかあり
ませんが、今後ともよろしくお願
い致します。

●投稿を歓迎します！

会報は年二回、六月と十二月の
発行をめざして、係一同がんばっ
ています。会員の投稿を中心に編
集しますので、ぜひどしどし原稿
をお寄せください。

・同期会・随想・紀行文・回想記
・和歌俳句・新刊の紹介・会報に
ついで意見など

六一年度会費拠出者

(順不同・敬称略、括弧内の
数字は口数、無印は二口)

昭和62年3月1日～62年11月31日

期別

二八 森綱平

三一 塚田英夫

三二 岡本敏興 前田鉄三

三四 嘉悦一郎

三五 畔柳安雄

三八 石割正、大村秀雄

三九 増井四郎

四〇 増田完五、野崎操一、伴野
三千良

四二 井出多米夫、岩波信平(4)

岩崎康、田中治、宮澤次郎

(4)、内田正大、沼津善
夫、中川謙輔、吉田幸一牧

野力、国分友美(4)、村
上禎婚、中嶋敏

四三 今井志郎、井沢源治、西沢
純三、吉江誠一、小河直人

北里良夫、望月孟夫、环晴
行(3)、山村忠雄、倉沢栄

吉、三好由三郎、柳沢保雄

長戸寛美

四四 高橋真一、村井東助、増井
三郎、中村満夫、武田四郎

(5)

大石清、柏木千秋、草野哲
佐野理平、鈴木弥門(3)

田附敏三、堀正治、下川孟

須山達夫、石上稔、竹下定
吉、千葉保次

四六 内山規、長浜謙二、久留武
(3)、磯塚倫三、青木清明

山本幹夫(4)、大島正雄
(4)

四七 今関智吉、片山正二、杉山
栄一、杉江敏男、中村豊夫

星野三郎、山上信重、大村
三郎、土井知恵雄、関口不

二夫、鳴谷亮一、吉見四郎
田中達夫

四八 近藤希賢、原崎進一、福永
正美、伏見賢治郎、日比野

悦三、黒水高典、太田正元
河村祥、大橋広世、興津幸

四九 四郎、青木香、奥山正、富
谷精一

五〇 伊藤徹次郎、小林道雄、菅
沼栄、曾根重四郎、長井広

石田大二郎、陰山修次、山
村忠平、篠原泰、安本久、

嶋三四郎、伴野徳三郎、大
津英輔、加藤肇、植木定美

杉本久敏、矢崎宗男、直原
敏衛

五一 丸尾文治(61・62)、緑川俊
徳、江川友治、梅村魁(4)

一一彦、仁科義郎、大庭富
士夫、永田澄(3)、山田喜

志夫、梶原忠治、浅賀博澄
住太郎、富田秀雄、峰田静

夫、村瀬重利

五二 永井五一郎、渡辺功、原崎
郁平、田中賢一、佐伯正剛

河瀬士郎、森弘、谷川清、
伊藤演吉、難波悦朗、林盛

次

五三 苦米地一樓、佐藤昌武、直
原澄衛、茂呂茂樹、大草知

久、市川雄八郎、相島秀夫
川島喜八郎(4)、曾根信一

五五 一、遠藤謙、西田豊馬、岩本
良雄、今井健三、為田清、

新美弘、一誠(4)、渋谷正
敏(61・62)、服部雅雄、

鼠入武夫、田中貞司(4)

五三 奥野孝、三枝正裕、桜井昌
也、園田芳男、徳永悠久、

橋本久仁寿、益田貞三、松
前新太郎、山菅幸雄、月見

里得知郎(4)、志田寿一、
宗像肇、大橋百蔵、谷静夫

五五 木宮高彦、野崎昌輔、森下
洋、手島正一、島田良彦、

片桐鎮夫、鈴木弘雄、宮沢
四郎、杉山滋夫

五四 庵原梯次、細井庸二、渡辺
治郎、大藤直久、鈴木猛、

安東哲夫、磯野修、佐野圭
司、篠原範平、大畑忠夫、

五五 平林一郎、調津三朗、居初
良雄

五五

相川富士雄、高橋恒三、武
井富夫、中田千束、中田吉

信、長沢栄一、法月重雄、
木村康弘、鷺巢英策、吉川

五五 鎧介、水上八郎、青木和彦
松井保治、戸塚正五、野中

篤、成瀬信男、山本武、小
沢忠樹、相馬英夫、石神甫

一、山下武男、中野治良

五六 青木良文、奥野進、佐野豊
彦、清水逸郎、杉原泰二、

横森桂、原田昇左右、石塚
由雄、中村治郎、橋本保二

五五 高橋四郎

五七 影島利邦、杉山正友、藤巻
重男、月見里礼次郎(4)、

鈴木克己、酒井博、鳥居義
彦、久保田誠三、岩井平一

五五 郎、小花正昭、福住俊郎、
岡田久男、北村正、稲葉登

五五 服部健一、岩本忠吉、鈴木
勝義、萩原義臣(61)、猪

五五 瀬忠賀、世古真臣(61・62)
原田和彦、海野進、天野国

五五 明、伊藤健三、向井晃
奥沢徹、小花敏郎、三輪

五五 深、寺尾宏一郎、清水汪、
加藤恵一、菅原操、酒井勇

五五 湯本幸丸、増田真一、勝呂
清、望月靖久、富永利夫、

五五 長田宏、木宮和彦

六〇 上杉重吉(4)、柴田正臣、

- 原俊、山崎鏡次、原田竜二
新聞昌輝、大石隆一、齊木
学、君島康弘、堤崇、満間
猛、時田正康、山路敬三、
山本善通、井出裕雄、石関
忠雄、益田清聞、辻村輝彦
鈴木吉明、原善三郎
六二 福田英雄、花見久、浅野徹
治(61)、西田駿之介、山
崎和夫、大村富士男、大石
次男、鈴木孝、奥野泰助、
清水照彦、安原徹治、河合
純四郎(61・62)、相羽達雄
六三 大塩幸男、白鳥芳夫
塩沢敬、田喜光(3)、高田
桂造(4)、柴田克朗、三枝
弘之(4)(61・62)、川手生
己也(4)、朝倉直己、手塚
俊一
六四 六五 岩本吉雄(4)、長島
健、仲野実(3)、名波倉四
郎、野沢正憲(4)、栗田
行雄、増田政雄、渡辺進一
(5)、吉井駿亮、山本和彦
増田誠男、松下一男、狩野
達彦、蛭川博之、永田進一
長谷川直和、望月垣、渡辺
素夫、八木綱三、杉本哲、
村上喜代二、佐野旭、鈴木
明郎、原田美津男、柳田亮
大村達郎、稲見章、田中耿
竹内豊、加藤満、浅井幹夫
- 塚本光彦、中村孝、遠藤栄
石川劍二、河守輝雄、小林
五郎、田中俊男、増井和夫
武藤勇、山下智康、森山秀
夫、仲野道雄、尾入泰彦、
曾根錦吾、菊田聡裕、藤原
朝則、加藤昭、安池智策、
原常勝、村松武司、大坪信
之、久保泰夫、小林成敏、
関本和男、山本敏雄、辻陽
一(3)、馬淵逸明、杉村行
勇、馬越駿
六七 朝倉勇、大石脩司、梶原由
三、川上剛二、小坂博、児
島英男、成岡英彦、福原享
一、岩崎為明、松本安子、
朝比奈正三、田中映吾、遠
藤一彦、向井久和、大森恵
吉、滝川博、角田栄一、小
杉弘、山川静夫、河口正義
影山友安、中村次雄、稲葉
昌弘、溝口淑郎、杉山喜三
塩沢満、加藤要作、鷲巣雄
造、金子堅司
六八 岩瀬順郎、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、大
神安雄、塚本浩司、藤波真
五(5)、杉山忠男、伊東良
平、雨宮明生、秋山和也、
北村公一、萩原多賀男、渡
辺郁馬、石川勝也、森下健
- (61)、亀山恭一、大橋勝弘
額額晃生、田中英夫、酒井
定子、野中省三、川西脩司
増井良敏、高橋俊見、鈴木
昭夫、斉藤武、磯西洋、瀬
戸川徹、鈴木俊彦
六九 神谷貞子、松島玲子、堀場
千賀重、鈴木敦、堤章、大
石メイ子
七〇 川端正良、関哲男、長倉良
松、中村竜二(61・62)、渡
辺勝美、中馬敏雄、鈴木明
次、味岡安、佐々木政之、
村上雅一、賀知進、大高源
之丞、仁科正雄、滝口登、
岩崎修、大村梯二郎、田中
宏志、佐藤基孝
七一 佐藤利治(3)、実石欣哉、
後藤弘枝、小池啓治、加藤
祐史、森川滝太郎、山崎恭
弘、秋田和男、児玉文男、
浦田彰、村松綾啓、山本雅
司、白井力、片山守彦、篠
原直、矢部正和、伊藤勝、
梅原孝允、渡辺弘、笠井克
彦
七二 桜井亮介、佐藤修一郎(4)
花田守弘、松木茂夫(61・
62)、山口公子、川端正志
山田勝、大木通安、加来義
信、木村順策、宮沢男、小
林文矩、高須喜隆、種茂雅
- 之、前田栄一、岩下方彦、
笹原英夫
七三 佐々木勝彦、小柳忠義、関
悦男
七四 木村敦、稲葉一宇、西村泰
一、松下晴一、内山明夫、
田地川洋子、角谷治子、藤
原経史(4)、大嶽隆司、寺
尾純彦、佐藤薫郷、山脇伊
久男、桑原英明、小和田久
雄、桑原伊玖子、鈴木陽、
石川富規夫、両角友靖
七五 佐藤茂秋、泉勇兵、篠原興
石井博之、石川暢子
七八 上田尚亮
七九 深沢直行(10)、角谷勝彦、野
崎幸彦、松浦正朗、松沢公
夫、山本洋一、田中稔(4)、
多田佳忠(10)、太田寛、成
沢克彦、長倉利夫
八一 萩原英昭、玉井直子
八二 伊藤寿男
八四 山田孝夫、石川直子、秋山
幹男
八六 白鳥健次
八七 平岩正史(61・12)、家徳
洋一、薬科名雄、桜井晴夫
塩川治郎(61・62)、浜野
洋行、植村恵美子、安倍敏
陽、石渡洋行
八八 菅沼順子
八九 内田守孝
- 九〇 三神美和
九二 服部泰子
九三 大津仁昭
九九 山本健司、海野晃代、牧田
英子、鷲巣達也、鈴木浩士
山下泰規
一〇一 白井正博、赤池伸一、谷仁
志、海野公嗣、大石潤、田
井万知子、松浦真紀子、花
井淳代
一〇二 杉本文洋、梅原章裕、小川
純久、金田裕孝、佐藤友男
中川啓介、長崎武晴、二宮
洋一、山崎裕也、渡辺晃生
杉山達郎、八木敬子、山本
徳子、
一〇三 川島由紀

国際線航空貨物・海外旅客取扱
運輸大臣登録旅行業代理店業3440号

株フジ・ワールド・エンタープライズ

代表取締役 中馬敏雄(70期)

〒105 東京都港区浜松町1-29-7 河原ビル

貨物電話 434-0591(代)

旅客電話 437-5861(代)

直通 433-6651

FAX 434-5537

- 〃 浜田 祐輔 184 小金井市中町2-20-1 北海荘1-3
【0423-83-8787呼】
■東京農工大学大学院
- 99 大和 和也 201 狛江市和泉本町2-3-9 【03-430-9212】▲鐘紡㈱カネボウ化粧品本部
- 〃 小沢 真弓 ▲日経リサーチ 【03-292-5151】
- 〃 鈴木 浩士 108 港区白金台2-9-30-20
【03-442-7442】
- 〃 鈴木 正人 145 大田区北千京3-10-8 【03-720-5493】■東京工業大学大学院
- 〃 松永 知子 176 練馬区豊玉南3-4-73 【03-991-7803】▲ヤマト運輸㈱ 【03-541-3411】
- 〃 森 俊晴 176 練馬区早宮1-31-16
コーポヒマラヤ102 【03-992-6462】
- 〃 鷺巣 達也 165 中野区野方4-41-12-203
【03-319-6508】
- 101 保崎 貴志 142 品川区豊町6-27-12 春日荘1-3
【03-783-3950】

新規加入

- 68 櫛根 正道 160 新宿区四谷1-14 【03-355-5529】
▲鐘化四谷クラブ
- 〃 増井 良敏 270-11 我孫子市久寺家585-107
【0471-84-7989】▲三井生命不動産部
【03-211-6111】
- 〃 八木 貞夫 158 世田谷区奥沢2-29-17 【03-718-4823】▲住友銀行 【0476-32-5781】
- 〃 斉藤 武 181 三鷹市牟礼4-18-8【0422-47-7433】
▲富士重工業㈱ 【03-347-2267】
- 80 大石 孝裕 281 千葉市柏台1-24-604▲エゴン・ゼンダー・インターナショナル㈱
【03-239-8791】
- 99 山下 泰禎 166 杉並区阿佐ヶ谷北6-36-13 藤栄荘2 F 【03-339-6198】■早稲田大学
- 99 谷口 知子 160 新宿区高田馬場1-6-19 牛込方
【03-208-5907】■早稲田大学
- 101 伊東 秀洋 164 中野区本町3-8-4 【03-372-0929】
▲東京工大
- 〃 大石 潤 新宿区下落合3-17-25 アイレックス目白302 【03-953-9971】■早稲田大学
- 〃 田井万知子 186 国分寺市東戸倉1-17-9 山田方

【0423-22-6903】

- 〃 松浦真紀子 151 渋谷区笹塚3-2-3ベルプラザ704
【03-376-5770】
- 102 鈴木 敦司 160 新宿区高田馬場1-9-5 富士見荘10
【03-200-8942】■早稲田大学
- 102 野崎 晶子 273 船橋市宮本8-30-13 花輪ガーデン301 ■東京芸術大学
- 103 伊藤千恵子 171 豊島区雑司ヶ谷2-3-24 保谷方
【03-590-8641】
- 〃 内藤 明弘 112 文京区大塚1-11-9 富士寮
■明治大学
- 〃 安本 光夫 153 目黒区駒場3-8-1 中寮2 S
■東京大学

転居先不明

- 69 小林 泰三
- 70 宮本 達司
- 71 酒井 力
- 72 中塚 智之
- 74 小野田幸弘
- 87 日比野升勇 八木 宏樹 渡辺 洋一 胸組 光明
平岡 孝 坪内 和人 一志 文子 飯村富美代
大平 わか 泉 洋子 小川みよ子
- 93 高須 章好
- 95 平野 達也
- 96 松浦 淳子
- 97 大石ミキ 沢沢富美子
- 99 佐藤 欣久 豊田 定功 小沢 秀寿 馬場 厚生
塚本 浩之 杉山 高史 伊坂竜一郎 山下 暢久
田中 勝己 三浦 一郎

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科

人間ドック

ねつ

かん

熱 函 病 院

院長 小 坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

同窓会コンベンなど、ご相談ください。

伊豆大仁カントリークラブ

伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石 橋 正 秋

取締役支配人 安 田 正 弥 (66期)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1

TEL 0558-76-2401 (代表)

- 72 大川原 武 転出
 “ 笠井 康之 ▲【03-348-1111】
 “ 勝見 康二 群馬県邑楽郡大泉町仙石1696-80
 【0276-62-4470】
 “ 木村 克彦 【0297-74-5063】▲【0297-77-3661】
 “ 小林富士男 転出
 “ 黒岩 嘉明 伊勢崎市豊城町2255-9
 【0270-26-6462】▲日本電子機器㈱
 “ 佐怒賀弘三 ▲【03-406-2365】
 “ 佐野 令而 川崎市宮前区小台2-1-17
 “ 坂下 光夫 ▲【03-436-9796】
 “ 清水 雅彦 【0472-79-8166】▲電通映画社
 【03-544-9280】
 “ 杉山 禎夫 ▲【03-907-7840】
 “ 鈴木 靖二 ▲【045-934-1602】
 “ 田中南山雄 ▲【03-448-5552】
 “ 高須 喜雄 ▲【0486-45-4874】
 “ 武井 正和 ▲渋谷簡易裁判所【03-409-0631】
 “ 石田駿一郎 104 中央区佃2-11-6-901
 【03-532-5690】▲日本鋼管
 “ 芝田 恵史 281 千葉市小仲台4-3-1 稲毛フラワ
 マンション201【0472-87-9022】
 ▲日動火災【0472-47-1331】
 “ 小林 丈矩 大倉山ハイム6-107 【045-544-4340】
 ▲大正製薬【03-985-1111】
 “ 岩下 方彦 ▲【03-490-0891】▲【03-270-3201】
 “ 田中 敬二 142 品川区平塚2-14-2【03-786-4073】
 “ 武田 勝 087 小平市上水新町1309-53
 【0423-45-1275】
 “ 八木 伸明 春日部市豊町3-4-36
 転居先不明 遠藤裕 小笠原成吉 大石久 佐野照
 鈴木彰 鈴木忠雄 谷口諒次 中野保男
 74 野々田 昶 183 府中市小柳町3-32-26
 【0423-69-2562】●野々田小児科医院
 “ 佐藤 薫郷 北区→港北区
 “ 藤原 経史 横浜市港区高田町252-25【045-593-
 3101】▲松下通信工業㈱直轄営業部
 “ 角谷 治子 ▲【03-362-7311】
 77 深山 源一 練馬区上石神井3-20-14
 80 入谷 健彦 埼玉県入間郡毛呂町岩井3024-3
 【0492-94-7299】▲和光純薬工業㈱
 “ 小長谷康雄 ▲日本航空㈱【03-284-2081】
 “ 角谷 勝彦 ▲【0487-72-1111】
 “ 高橋 勝彦 ▲三菱重工【03-433-5131】
 “ 高木 郁生 347-02 埼玉県加須市上樋遣川3542-2
 【0480-68-6576】▲日本鋼管㈱プラン
 ト機器【045-511-1331】
 “ 中川 武久 227 横浜市緑区あざみ野4-3-11-202
 【045-903-3657】
 ▲三井生命横浜支社【045-312-4471】
 “ 成沢 克彦 ▲㈱三井農林住販【03-401-7791】
 “ 野崎 幸彦 247 鎌倉市岩瀬1381-5【0467-44-8595】
 ▲O A 計算機㈱【03-438-2555】
 “ 藤江 通昌 ▲【03-481-0930】
 “ 松沢 公夫 ▲ディックコンピュータサービス㈱
 【03-253-3921】
 “ 松浦 正朗 〒220
 “ 山崎 恵裕 ▲【03-425-1213】▲(株)ゴーシェ弦楽器
 【03-711-7054】
 “ 山本 洋一 成城北クラブ405▲【03-265-3983】
 “ 田中 稔 ▲第一高等学院【03-818-2323】
 “ 諸星 勝保 173 板橋区板橋1-48-8
 ダイアパレス新板橋708
 “ 増田 安久 168 杉並区浜田山2-4-12【03-306
 -6799】▲三共㈱東京第一支店
 【03-279-1511】
 82 多賀谷秀保 153 目黒区目黒4-19-2【03-715-0515】
 “ 伊藤 寿男 ▲【03-304-6063】
 83 田中 渉 165 中野区江古田1-20-3
 【03-951-3564】
 87 石渡 洋行 (旧)浜野→(新)石渡▲【03-767-7311】
 88 渡辺 護 214 川崎市多摩区寺尾台1-18-8ライ
 オンズマンション読売ランド301
 【044-944-9711】▲A T カニーインタ
 ーナショナル【03-591-8936】
 89 渡辺 晃 270-11 我孫子市新新田2-1ウイングA
 503【0471-89-4409】
 ▲東洋サッシ㈱人事部【03-672-1113】
 90 青木ますみ 転出
 93 佐野 孝 191 日野市多摩平1-5-6 豊田アパート
 A102【0425-82-1565】▲日立金属㈱
 【03-284-4643】
 “ 望月 朗 160 新宿区北新宿3-27-3-506
 【03-227-0824】
 94 金子 優子 215 川崎市麻生区下麻生287
 (旧姓鈴木) ハイッ碓井202【044-988-6825】
 “ 佐々木美登利 市川市菅野4-9-20【0473-25-1264】
 ▲㈱ステージインストルメンツ
 【03-505-1916】
 “ 篠崎 光 文京区向丘2-11-8㈱松下産業第二追分
 寮【03-822-0065】▲【03-814-6901】
 “ 杉山 和正 転出
 “ 高木 均 312 茨城県勝田市田彦426-3【0292-
 72-0042】▲日立製作所東海工場
 【0292-73-1111】
 “ 中村 務 川崎市高津区千年938 原荘2-2
 【044-766-1926】▲【044-433-1111】
 “ 西 宏昌 176 練馬区桜台4-1-11オリンピックマ
 ンション桜台第2-204【03-992-9708】
 ▲㈱熊谷組【03-260-2111】
 “ 安本 修身 187 小平市美園町2-7-12-102
 【0423-43-4952】▲【03-347-4880】
 95 片岡 敏晃 181 三鷹市下連雀4-22-5
 石黒ハイッ4【0422-43-7199】
 98 鈴木 竜三 176 練馬区小竹町1-71-8サンダリン
 204▲読売新聞社【03-242-1111】

- ▲ポーラ印刷【0492-59-1361】
- 64 山村堯日呂 習志野市鷺沼8-1949
- 〃 山本 和彦 【0492-45-3318】
- 〃 山本 光夫 177 練馬区関町南2-15-14
【03-929-1744】
- ▲ホテルニュー神田【03-258-3911】
- 〃 山本 菊哉 世田谷区上用賀4-17-5-48
世田谷区立中丸小学校
- 〃 渡辺 素夫 ▲エヌイー・トージツ㈱
【03-648-3481】
- 〃 酒井 久 180 武蔵野市吉祥寺南町1-27-1
パインクレスト701【0422-42-1731】
- 〃 遠藤 栄 213 川崎市宮前区けやき戸1-9-403
【044-877-7208】
- ▲NHK考査室【03-465-1111】
- 〃 望月 康逸 245 横浜市戸塚区弥生台12-4【045-
811-6587】▲東通電子サービス㈱
【0467-75-5204】
- 〃 竹内 豊 141 品川区北品川5-10-1-313
【03-441-2822】
- 66 山本 敏雄 229 相模原市清新7-1-1
- 〃 村松 武司 ▲万有製薬㈱臨床開発部
【03-270-7591】
- 〃 尾入 泰彦 勤務先削除
- 67 河口 正義 ▲東京通信病院施設課長
【03-238-7161】
- 〃 杉山 喜三 ㈱フジミドレス
- 〃 滝川 博 ▲石川島輪造機㈱【03-255-6545】
- 68 伊東 良平 ▲勸業角丸経済研究所【03-639-7856】
- 〃 市来 昭二 川崎市中原区上小田中
- 〃 今井 行 ▲日本原子力研究所【0292-88-5395】
- 〃 岩瀬 順郊 ▲【03-567-0455】
- 〃 大神 安雄 ▲【03-293-1651】
- 〃 大橋 勝弘 ▲三井建設㈱【03-864-3380】
- 〃 額額 晃生 横浜市港南区日野南6-8-17
▲【03-278-8538】
- 〃 佐野川好母 ▲【02928-2-5416】
- 〃 白鳥 健次 ▲【0425-82-9180】
- 〃 神保 尚司 ▲日産トレーディング㈱
【03-545-2359】
- 〃 杉山 忠男 275 習志野市谷津3-1-25-307▲社会保
険診療報酬支払基金【03-596-7441】
- 〃 鈴木 昭夫 ▲シチズン時計㈱【03-342-1231】
- 〃 鈴木 北斗 ▲倫北星【03-381-1523】
- 〃 高木 泰志 ▲新電元工業㈱
- 〃 武光 康之 ▲第一製薬㈱中央研究所
【03-680-0151】
- 〃 立花 雅一 ▲日本高速通信㈱【03-263-0070】
- 〃 鍋田 邦彦 235 横浜市磯子区栗木町2-18-11
- 〃 野中 省三 228 相模原市上鶴間3030-6【0427-47-
0367】▲大東運輸㈱【03-452-6275】
- 〃 萩原多賀男 ▲中日新聞社東京本社浦和支局
【0488-66-3311】
- 〃 林 明宏 ▲住友銀行【03-282-5111】
- 〃 福地 康二 273 船橋市市場3-16-1-102
- 〃 福本準一郎 【0471-84-2645】▲三井生命公務部
【03-213-0805】
- 〃 星野 敏郎 ▲東京音楽社【03-476-5222】
- 〃 松下 司郎 ▲【03-504-9446】
- 〃 吉崎 英輔 ▲【03-210-6200】
- 〃 赤松 靖弘 転居先不明
- 〃 安藤 昌 〃
- 70 味岡 宏 ▲ジェイ・エス・ピー㈱
【03-434-6376】
- 〃 田中 宏志 東電設計㈱
- 71 西野 章 調布市深大寺東町4-26-35
【0424-84-5527】
- ▲武田薬品工業㈱【03-278-2490】
- 〃 石川 慎男 横浜市金沢区西柴3-30-4 ▲全日空輸
八丈島空港【04996-2-0448】
- 〃 石上 惟啓 柏市中十倉二4-5柏の葉公園住宅
2-23【0471-32-7715】
- 〃 岩崎鎌一郎 253 茅ヶ崎市茅ヶ崎2-4-5-406
- 〃 永野 誠和 ▲日本アール・ビー・エフ㈱
【03-546-3501】
- 〃 片山 守彦 ▲千葉高架㈱【0473-25-0111】
- 〃 長倉 真一 千葉市幸町1-11-3 エシール404
【0472-45-0031】
- 警察庁保安部防犯企画課
- 〃 繁村 一雄 ▲北日本相互銀行外国部
【03-293-2677】
- 〃 伊藤 勝 【0484-78-1573】
- 〃 野沢 弥寿 ●ノザワスタジオ【03-781-2488】
- 〃 松隈 道雄 ▲東芝交通事業部【03-457-4583】
- 〃 小池 啓治 ▲不動産調査サービス【03-211-2351】
- 〃 本間 啓司 ▲日本軽金属㈱【03-456-9259】
- 〃 大井 康生 【0425-31-4713】▲日野自動車工業
【0425-86-5355】
- 〃 諏訪 逸郎 日野市西平山5-50-6▲富士ケンブリッ
ジ・インスツルメンツ㈱
- 〃 岡田 絃 練馬区石神井町3-4-23
- 〃 富野 寿 茅ヶ崎市十間坂3-5-31
- 〃 関本 光宏 川崎市麻生区千代ヶ丘1-6-40
- 〃 渡辺 弘 243-01 厚木市森の里3-13-9【0462-
48-1994】▲木内建設㈱千葉営業所
【0472-48-6345】
- 〃 浦田 彰 横浜市保土谷区岩井町448
- 〃 福島 章 【0467-45-6100】
- 〃 乾 効晋 156 世田谷区経堂5-6-9
- 〃 松井 正年 302-01 茨城県北相馬郡都守谷町
御所ヶ丘5-22-9
- 〃 山本 雅司 156 世田谷区経堂2-31-23 ▲防衛庁
- 〃 後藤 弘枝 【045-323-3608】
- 72 飯塚 三郎 死亡
- 〃 池ヶ谷寿夫 転出
- 〃 石井 正明 千葉市園生町135-2【0472-52-6207】

- 61 相馬 孝 杉田→杉田町 ▲日本放送協会
【03-464-7311】
- 〃 芹沢 博樹 藤沢市亀井野133-8 【0466-43-5016】
- 〃 田中 義夫 305 ▲農林省家畜衛生試験所ウイルス研究室【02975-6-7761】
- 〃 高村 岳史 ●税理士
- 〃 高山 秀男 214 川崎市多摩区金程408 【044-955-7110】▲日新火災海上保険㈱
- 〃 立花 幹夫 【03-757-2241】
- 〃 坪田 昭三 〒202▲【03-828-6111】
- 〃 土井 正樹 194 町田市忠生4-11-3 【0427-92-8654】▲菱日エン지니어リング㈱
- 〃 徳永 重造 244 横浜市戸塚区南舞岡4-12-5
- 〃 富永 辰典 〒271 【0473-88-6865】
- 〃 仲野 辰男 〒299 【0475-42-3142】
- 〃 成瀬 弘 【045-954-2121】
- 〃 西田駿之介 178 練馬区大泉町 ▲【03-835-5557】
- 〃 萩原 将弘 ▲【03-452-2101】
- 〃 福田 英雄 ▲㈱福田企画出版【03-293-0489】
- 〃 辺見 照明 330 大宮市天沼町1-621-80
【0486-41-8859】
- 〃 松永 典昭 157 世田谷区給田5-12-10 【03-307-9213】▲㈱福山コンサルタント・インターナショナル【03-671-7021】
- 〃 八木 貞二 〒176
- 〃 藪崎 昭 277 柏市逆井1668-89【0473-86-7985】
- 〃 山口 義雄 250 小田原市清水新田231-2 【0465-36-2084】▲ヤマキ㈱小田原支店
- 〃 山崎 和夫 【045-371-5709】▲京浜船貨整備㈱
- 〃 渡辺 敏朗 ▲【03-443-6171】
- 〃 若林 義男 転居先不明
- 62 柴田 克朗 ▲毎日案内広告社【03-573-0211】
- 62・63 伊東 守 ▲【045-783-9589】
- 〃 河合 卓 水越 巖 転居先不明
- 63 三枝 弘之 ㈱P F U代表取締役副社長
- 64 秋山知賀三 川崎市麻生区上麻生2-31-12
▲【06-245-3431】
- 〃 浅井 幹夫 ▲大東パーキング㈱【03-274-5037】
- 〃 新井 彰 目黒区東山2-16-1-411▲関東電気通信管理局【03-243-4700】
- 〃 井戸 良輔 ▲菱和調温工業㈱【03-402-4732】
- 〃 稲見 章 品川区上大崎2-13-35 【03-442-3415】
東医研診療所
- 〃 岩本 吉雄 【03-635-1530】
- 〃 上杉 英雄 215 川崎市宮前区菅生3-19-2
【044-97-8190】
- 〃 小倉 盤夫
- 〃 大石 和夫 270-02 野田市日ノ出町7-10
【0471-27-0619】
- 〃 大村 達郎 【03-424-6906】▲【03-597-2131】
- 〃 岡 善美 多摩市鶴牧5-12-7▲稲城第3小学校
- 〃 加藤 秀夫 習志野市袖ヶ浦2-1-3-503
【0474-54-8012】
- 〃 加藤 満 中野区中野3-30-12-210 ●プリモベア
- 〃 神谷 武男 清瀬市下清戸1-17-27-101 【0424-92-6280】▲鴻池運輸【06-463-6376】
- 〃 栗田 行雄 ●
- 〃 小林 剛 ▲ダイヤモンドクレジット横浜支店
【045-314-2172】
- 〃 今野 一義 ▲テクノトレード㈱
- 〃 佐野 旭 藤沢市亀井野2-1-5 ▲協和ビジネスアービス㈱【03-216-3608】
- 〃 酒井三到男 247 鎌倉市今泉台4-4-4
- 〃 鈴木 明郎 ●鈴木事務所【03-403-8504】
- 〃 鈴木 利男 横浜市南区花之木町2-29-1
リバーサイド小柳201
- 〃 田中 耿 ▲【03-544-6452】
- 〃 仲野 実 八王子市散田町4-33-16 ▲㈱エイブル・フェローズ【03-242-6506】
- 〃 武田 英夫 江戸川区南葛西7-1
なぎさニュータウン7-702
- 〃 塚本 光彦 鎌倉市今泉台3-5-2 【0467-47-0225】
- 〃 時田 勝博 272-01 浦安市東野3-21-3
【0473-51-6603】▲大日製紙㈱
- 〃 豊納 健蔵 182 狛江市元和泉1-21-4
▲㈱テック電子専務【03-239-9101】
- 〃 中村 孝 277 柏市松葉町6-19-4【0471-32-5262】
▲浦和家裁書記官【0488-63-4111】
- 〃 永田 進一 【045-774-6621】
- 〃 長島 健 ▲鉄道海外協力会【03-213-2331】
- 〃 馬場 泰男 ▲【03-207-1611】
- 〃 長谷川直和 ▲成田電報局空港施設課
- 〃 樋口 博一 157 世田谷区成城町4-21-16
▲ヒグチ織商㈱
- 〃 蛭川 博之 【0423-42-1085】▲【03-505-9267】
- 〃 益頭 尚文 113 新宿区下落合1-5-10
三越高田馬場寮
▲㈱三越本店【03-241-3311 内2097】
- 〃 増田 政雄 〒144 ▲㈱妙徳【03-759-1491】
- 〃 増田 誠雄 190 立川市若葉町1-21-72
【0425-36-5604】
▲東京書籍㈱常務【03-835-6062】
- 〃 松村 肇 206 多摩市落合4-5-6-202 【0423-74-6448】第一園芸(ホテルオークラ内)
【03-584-4233】
- 〃 村上喜代二 ▲日本アコーディオンドァ㈱社長
【03-353-0201】
- 〃 村上 幸之 ▲【0426-42-2111】
- 〃 望月 坦 多摩区→麻生区 ▲東京投資顧問㈱
【03-669-3504】
- 〃 八木 綱三 【045-833-3490】
▲㈱三越ハウジング【03-980-4146】
- 〃 柳田 亮 鎌倉市梶原3-31-3

名簿補遺訂正表(変更事項 新入会員) 62.4.1~62.10.31

●自営 ▲勤務先 ■学生 6月配布の名簿に折込みの訂正共名簿を訂正して下さい。64年に新名簿を発行します。

名簿訂正

- 38 伊藤 敏夫 死亡
42 吉田 幸一 東洋大学名誉教授▲電話番号削除
42 内田 正大 勤務先削除
45 千葉 保次 茂原市上永吉714
〃 田附 敏三 〒178

記載洩れ

- 49 直原 敏衛 223 横浜市港北区下田町4-2-C611
【044-63-5373】
〃 石割敏夫 新宿区富久町28-9
〃 杉本 久敬 156 世田谷区赤堤4-45-12
〃 曾根重四郎 223 横浜市港北区下田町3-26-12
〃 植木 定美 188 三鷹市深大寺1-5-15
51 田中 賢一 勤務先削除
〃 難波 悦朗
〃 林 盛次 勤務先削除
52 石野 浩一 相談役
〃 綾部 立一 ▲【03-457-0111】
〃 遠藤 廉 大和市西鶴間
〃 小川善次郎 ▲【03-701-4112】
〃 一 誠 ▲野田造園㈱【03-396-5116】
〃 上林 明 ▲【03-507-3155】
〃 苔米地一棧 勤務先削除
〃 小泉喜久男
〃 佐藤 昌武 ▲日仏協同商事㈱【03-261-1387】
〃 渋谷 正敏 ▲日本ホテル協会【03-279-2706】
〃 鼠入 武夫 杉世区→杉並区
〃 茂呂 茂樹 ▲武蔵野簡易裁判所【0422-52-2694】
〃 田中 貞司 ▲凸版印刷㈱【03-835-5540】
53 小野 一夫 ▲東伸フェンス工業㈱【03-431-9311】
〃 木宮 高彦 ●【03-470-3561】
〃 香林 竹男 勤務先削除
〃 桜井 昌也 ▲【03-253-3979】
〃 島田 良彦 ▲【03-233-9720】
〃 野崎 昌輔 【03-334-0232】
〃 益田 貞三 【0473-38-7188】勤務先削除
〃 望月 昂 【0474-54-3247】▲谷津保健病院
【0474-5-6000】
〃 森下 洋 【03-333-3733】
〃 月見里得知郎 【044-944-3208】
〃 山菅 章雄 【03-401-1365】
54 磯野 修 〒186
55 相川富士雄 【0427-43-9747】
〃 小沢 忠樹 勤務先削除
〃 宗 四朗 【03-325-8377】
〃 長沢 栄一 ▲【03-580-0762】
〃 山本 武 杉並区久我山5-17-22
〃 山本 孫一 横浜市鶴見区潮田町2-92
〃 吉川 鎧介 ▲日本化薬
〃 鷲巢 英策 転出

- 56 佐野 豊彦 勤務先削除
〃 佐々木俊夫 転出
57 池谷 秀雄 勤務先削除
〃 岡田 久男 213 川崎市宮前区野川3477-57
【044-766-5777】▲㈱日本カルチャ・
ソフト・サービス【03-261-0161】
〃 富田 澄 ▲さくら信販㈱【03-980-2501】
〃 松村 治男 223 横浜市南区永田山王台17-4
【045-741-8391】
〃 米沢 正次 140 品川区東品川3-22-20-615
【03-472-2557】▲ファイン・ケミカル
コンサルタント【03-472-2557】
〃 川崎 勤 田中 勇 牧 知巳 転出
58 向井 晃 相模原市相模大野4-5-4-706
59 湯本 幸丸 188 田無市向台町5-4-1 パークサイド
田無向台129
60 益田 清閑 ▲乗泉寺
61 安藤 厚 251 横浜市神奈川区西寺尾町1221公団
4-502【045-401-0389】▲地質調査所
【044-866-3171】
〃 青島 正和 ▲【03-264-8611】
〃 赤羽 昭二 181 三鷹市中原2-19-39
【0422-48-8954】▲税理士
〃 浅野 徹治 177 練馬区石神井町6-26-12
(山田) ▲新日軽㈱東京支店【03-820-2106】
〃 天野 昭 戸塚区→栄区
〃 伊藤 久 230 横浜市鶴見区鶴見中央3-1-6-406
【045-521-1906】
〃 大石 次男 ▲㈱はとバス【03-761-8899】
〃 大村富士男 ▲大村設備設計事務所
〃 岡田 吉見 【03-341-8977】
〃 河合純四郎 戸塚区→栄区 ▲雪印乳業㈱横浜支店
【045-641-7941】
〃 君島 敏男 213 川崎市高津区坂戸100-4-A-703
【044-833-1254】▲川崎汽船㈱
【03-595-5034】
〃 後藤 達朗 213 横浜市緑区荏田南1-19-7-757
【045-941-0287】▲王子緑化㈱東京
事業部【03-563-6321】
〃 近藤 徹 145 大田区南雪谷3-1-16
【03-727-3256】▲日新火災海上保険㈱
〃 清水 酒郎 154 世田谷区上用賀2-5 馬事公苑ハイ
△1-802【03-427-1622】▲太陽石油㈱
【03-501-3235】
〃 清水 照彦 ▲【03-791-1186】
〃 末吉 晴夫 寿→寿町
(野坂)
〃 鈴木 孝 四街道→四街道市 ▲富士工機㈱
【03-253-9481】

鈴与株式会社

取締役会長 鈴木与平 (44期)

清水市入船町11-1
Tel 0543 (53) 3111 (大代表)
東京支社 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F
Tel 03 (284) 0551 (代)

トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮澤次郎 (42期)

東京都千代田区神田駿河台1-6
TEL (295) 2411 (大代表)

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1
TEL (833) 2111 (大代表)

本田技研工業株式会社

川島喜八郎 (52期)

東京都渋谷区神宮前6-27-8
TEL (499) 0111 (大代表)

株式会社 東電社

取締役社長 岩波信平 (42期)

東京都中央区日本橋2-1-21
TEL (271) 2701 (大代表)

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57期)

本社 静岡市国吉田645
TEL 0542(62) 1111 (代)
東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル
TEL 03(272) 4651 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

齋勝山塗装工業所

代表取締役 奥澤徹 (59期)

本社工場 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6 〒246
Tel 045-301-5545 FAX 045-301-5547
大和工場 大和市深見3706-1 〒242
Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343
東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355
Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

建築コンサルタント・設計施工業務
建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大雄

取締役社長 奥野孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階
TEL 03-834-5331 (代表)

建築設計・監理

齋奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野孝 (53期)

取締役社長 奥野進 (56期)

取締役副社長 奥野広 (58期)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル
Tel 03-842-6831 (代表)
静岡事務所 静岡市安東2-8-14
Tel 0542-46-9378

総合広告代理店

株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈正三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階
TEL 03-254-2171 (代表)